

実施学科課程表(24生以降)

経済メジャー

(令和7年度)

授業科目	単位	開講年	実施時期	基盤科目	受講可能 年次	教員免許 該当科目	旧カリ科目名	担当教員	ページ
政治経済学Ⅰ	2	7	前	○	2年以上	公民	政治経済学Ⅰ	海	1
経済数学	2	7	前	○	1年以上	公民	経済数学	中本	2
統計学	2	7	前	○	1年以上	公民	統計学	中本	3
政治経済学Ⅱ	2	7	後		2年以上	公民	政治経済学Ⅱ	海	4
上級ミクロ経済学	4	7	前		2年以上	公民	中級ミクロ経済学	村山	5
上級マクロ経済学	4	7	後		2年以上		中級マクロ経済学	宇野	6
応用経済分析セミナー	2	8	前		3年以上		応用ミクロ・マクロ 経済学セミナー	小野	
現代資本主義論	2	8*	前・集中		3年以上		現代資本主義論	非	
計量経済学	2	8	前		3年以上		計量経済学	下田	
ゲーム理論	2	7	後		2年以上		ゲーム理論	下田	7
経済学史	2	7*	前		2年以上	公民	経済学史	田村	8
制度の経済学	2	7	前		2年以上	公民	制度の経済学Ⅰ	田村	9
経済統計学	2	7*	後		2年以上	公民	経済統計学	中本	10
サステナビリティのためのEBPM入門	2	7	前		2年以上			小笠原・高見・大井・宇野・ 小野・村山・林・中本	11
国際学生フォーラム	2	8*	前		2年以上		国際学生フォーラム	小笠原・木村	
地方財政論	2	8	前		3年以上	公民	地方財政論	小野	
社会調査法	2	7	後		2年以上	公民	社会調査法	中本	12
経済史	2	7	前	○	2年以上		経済史	安永	13
SDGsセミナー	2	7	後		2年以上		経済学国際セミナー	柴田	14
国際貿易論	2	7	前		2年以上	公民	国際貿易論	柴田	15
世界経済論	2	7	後		2年以上	公民	世界経済論	柴田	16
開発ミクロ経済学	2	7	前		2年以上	公民	開発経済論	木村	17
開発経済学	2	8	後		3年以上	公民	アジア経済発展論	木村	
EUの政治経済	2	7	前		2年以上	公民	EUの政治経済	デイ	18
グローバルスタディ入門	2	7	後		1年以上	公民	グローバル化と政治経済	デイ	19
現代国際関係論	2	7*	前・集中		2年以上		現代国際関係論	非(高山)	20
現代国際関係史	2	7*	後・集中		2年以上		現代国際関係史	非(高山)	21
労働経済論	2	7*	後		2年以上		労働経済論Ⅰ	石井	22
労使関係論	2	7*	後		2年以上	公民	労使関係論	石井	23
社会政策論Ⅰ	2	7	前	○	2年以上	公民	社会政策	石井	24
社会政策論Ⅱ	2	7	後		2年以上	公民		石井・三好	25
地域福祉論	2	7*	前		2年以上		地域福祉論	三好	26
公的扶助論	2	7*	前		2年以上		公的扶助論	三好	27
西洋経済史	2	7	後		1年以上		西洋経済史	安永	28
日本経済史Ⅰ	2	7*	前・集中		2年以上		日本経済史Ⅰ	非(古波蔵)	29
日本経済史Ⅱ	2	7*	後・集中		2年以上		日本経済史Ⅱ	非(堀川)	30
環境の経済学	2	7*	前・集中		2年以上		環境の経済学	非(外川)	31
経済政策論Ⅰ	2	7	前		2年以上	公民	経済政策論Ⅰ	高見	32
経済政策論Ⅱ	2	7*	後		2年以上	公民	経済政策論Ⅱ	高見	33
産業組織論	2	7*	前・集中		2年以上		産業組織論	非(柳川)	34
公共経済学	2	8*	前		3年以上	公民	公共経済学	高見	
社会保障論	2	7	後		2年以上		社会保障論	三好	35
財政学Ⅰ	2	7	前		2年以上	公民	財政学Ⅰ	小野	36
財政学Ⅱ	2	7	後		2年以上	公民	財政学Ⅱ	小野	37
金融論Ⅰ	2	7*	前		2年以上	公民	金融論Ⅰ	小笠原	38
金融論Ⅱ	2	8*	後		3年以上	公民	金融論Ⅱ	小笠原	
国際金融論Ⅰ	2	7*	前		2年以上	公民	国際金融論Ⅰ	小笠原	39
国際金融論Ⅱ	2	8*	後		3年以上	公民	国際金融論Ⅱ	小笠原	
証券論	2	7*	前		2年以上		証券論	非(金(珍))	40

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K522E201		政治経済学 I (Political Economy I)					学部基盤科目 経済メジャー系		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態									
選択	2	2, 3, 4	経	前期	木2	日本語				単独									
担当教員	氏名 海 大 汎																		
	E-mail dbhae@oita-u.ac.jp 内線 7681																		
授業の概要	・テーマ：資本主義的生産様式の成立と展開																		
	・概要：本講義は、『資本論』第Ⅰ部の内容を学修するものとして、資本主義経済の形成過程と基本構造について理解を深めることを目的とする。資本主義経済の理論を学ぶことによって、受講者には、経済現象の法則性を理解し、現代社会の諸問題を把握できる力量の涵養を期待する。																		
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	『資本論』第Ⅰ部の核心的な内容を理解できる。										○		○	○					
目標2	商品・貨幣・資本の内的原理を体系的に把握できる。										○		○	○					
目標3	資本主義的生産様式の成立原理からその運動法則を説明できる。										○		○	○	○				
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度 (計10)											3		3	3	1				
授業の内容																			
1	ガイダンス																		
2	商品とは何かー商品の2つの要因																		
3	商品の価値規定																		
4	価値形態と交換過程ー商品から貨幣へ																		
5	貨幣の基本的機能ー商品流通の契機																		
6	貨幣の派生的機能ー貨幣としての貨幣																		
7	貨幣の資本への転化ー価値増殖の謎																		
8	剰余価値の発生メカニズム																		
9	絶対的剰余価値の生産																		
10	相対的剰余価値の生産																		
11	特別剰余価値の生産																		
12	生産様式と労働者統合																		
13	賃金と雇用																		
14	単純再生産と拡大再生産																		
15	資本蓄積と相対的過剰人口																		
ラーニング チェック シート グループ	A:知識の定着・確認		○	・小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。							工 夫 の 他 の								
	B:意見の表現・交換		○																
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造		○																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		[15h] 次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。																
	事後学修		[30h] 講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。																
	想定時間合計		45																
教科書	・森田成也(著)『[新編]マルクス経済学再入門ー商品・貨幣から独占資本まで〈上巻〉』(2019年)社会評論社。																		
参考書	・参考資料を適宜配布します。																		
成績評価の方法 及び 評価割合	評価方法					割合	目標 1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標 9	目標10			
	小テスト					40%	○	○	○										
	学期末レポート					50%	○	○	○										
	授業への参加度					10%	○	○	○										
注意事項	・欠席や遅刻は減点対象になります。																		
備考																			
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K521E202		経済数学 (Mathematics for Economics)					学部基盤科目 経済メジャー系		オンライン (オンデマンド型、含 対面)								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択		2	1,2,3,4	経済学部	前期	火4	日本語		英語		単独						
担当教員	氏名 中本 裕哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677																
	授業の概要 経済理論の理解や経済分析には数学が不可欠である。本講義では、経済学を学ぶ上で必要な入門的な数学（主に微分積分，線形代数）に焦点を当て，数学スキルの修得を目指す。さらに，数学スキルと経済分析の関連性を理解することで，経済学を学ぶための基盤を築く。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7	
目標1	経済理論の理解や経済分析に必要なとなる入門的な数学スキルを修得する。						○										
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度（計10）							10										
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	関数																
3	均衡分析																
4	指数・対数																
5	数列																
6	導関数																
7	1変数の微分																
8	中間試験																
9	多変数の微分																
10	偏微分																
11	全微分																
12	最適化																
13	等式制約のもとでの最適化																
14	ベクトルと行列																
15	行列演算																
ラーニング イン グ ブ	A:知識の定着・確認		○		毎回，講義の終わりに小テストを実施する。					エ そ 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向		○														
	D:知識の活用・創造																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		参考書などを必要に応じて予習する。(15h)														
	事後学修		授業で扱う例題、小テストで復習する。(30 h)														
	想定時間合計		45														
教科書	教科書を指定しない																
参考書	A.C. チャン・K. ウエインライト『現代経済学の数学基礎〈上〉第4版』彩流社，2020年																
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト						30%	○									
	中間試験						30%	○									
	期末試験						40%	○									
小テスト，中間試験，期末試験から総合的に評価する。																	
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)				授業形式							
K521E203		統計学 (Statistics)						学部基盤科目 経済メジャー系				オンライン (オンデマンド型、含 対面)							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語			担当形態							
選択		2	1, 2, 3, 4	経済学部	前期	金2	日本語		英語			単独							
担当教員	氏名 中本 裕哉																		
	E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677																		
授業の概要	統計学は、「科学の文法である」と表現されるように、今日の科学において重要な役割を果たしている。また、私たちの身の回りにも統計学が関わっている事例が溢れている（例えば、生命保険料の計算、選挙結果の速報、ワクチンの効果の判定など）。本講義では、統計学の基礎を学び、様々な統計が生まれるまでのプロセスを正しく理解することで、現実社会における経済事象を公正かつ適切に分析・解釈することを目指す。																		
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	記述統計および確率論と確率分布の基礎を修得する。								○										
目標2	推定や仮説検定の基礎を修得する。								○										
目標3	統計的手法を用いて、現実社会における経済事象の分析とその結果の考察ができる。										○								
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度 (計10)									8		2								
授業の内容																			
1	ガイダンス																		
2	度数分布とヒストグラム																		
3	データの整理I：平均，分散，標準偏差																		
4	データの整理II：相関係数																		
5	確率																		
6	確率変数I：確率分布																		
7	確率変数II：確率変数の期待値と分散																		
8	様々な確率分布																		
9	母集団と標本																		
10	区間推定I：母分散既知																		
11	区間推定II：母分散未知																		
12	仮説検定I：両側検定																		
13	仮説検定II：片側検定																		
14	回帰分析																		
15	まとめ																		
ラーニングエッセンスマップ	A:知識の定着・確認		○	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。					エ ス の 他 の										
	B:意見の表現・交換																		
	C:応用志向		○																
	D:知識の活用・創造		○																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		参考書などを必要に応じて予習する。(15h)																
	事後学修		授業で扱う例題，小テスト，参考書の章末問題などで復習する。(30 h)																
	想定時間合計		45																
教科書		教科書を指定しない																	
参考書		小島寛之『統計学入門』ダイヤモンド社，2006年 戴友良『入門 実践する統計学』東洋経済新報社，2012年 森棟公夫ほか著『統計学（改訂版）』有斐閣，2015年																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	小テスト						30%	○	○										
	レポート課題						30%	○											
	期末試験						40%	○	○	○									
小テスト，レポート課題，期末試験から総合的に評価する。																			
注意事項	小テストや試験では，平方根(√)の計算ができる電卓が必要です。ただし，試験では電卓機能を備えた携帯端末（スマートフォンなど）の使用は認められません。																		
備考																			
リンク	統計WEB統計学の時間（下記URL）を準備学修，事後学修，試験勉強に活用すると良い。																		
	URL	https://bellcurve.jp/statistics/course/																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)			授業形式						
K532E301		政治経済学Ⅱ (PoliticalEconomyⅡ)						メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	2,3,4	経	後期	木2	日本語			単独							
担当教員	氏名海大汎 E-maildbhae@oita-u.ac.jp内線7681																
授業の概要	・テーマ：資本主義経済の構造と動態 ・概要：本講義は、『資本論』第2部・第3部の内容を学修するものとして、個別資本の運動原理を把握するとともに、その総体として導き出される資本主義経済の諸法則について理解を深めることを目的とする。資本主義経済の理論を学ぶことによって、受講者には、経済現象の法則性を理解し、現代社会の諸問題を把握できる力量の涵養を期待する。																
具体的な到達目標DP等の対応(別表参照)								1	2	3	4	5	6	7			
目標1	『資本論』第2部・第3部の核心的な内容を理解できる。							○		○	○						
目標2	資本主義経済の運動法則を体系的に把握できる。							○		○	○						
目標3	資本主義経済の内的傾向と現代社会の諸問題との関係を説明できる。							○		○	○	○					
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)								3		3	3	1					
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	個別資本の循環																
3	運輸と通信																
4	流通費と実現利潤																
5	個別資本の回転																
6	社会的総資本の再生産Ⅰ－単純再生産																
7	社会的総資本の再生産Ⅱ－蓄積と拡大再生産																
8	資本利潤と利潤率																
9	標準利潤率と生産価格																
10	利潤率の傾向的低下と長期波動																
11	商業資本と商業利潤																
12	利子生み資本と信用																
13	株式会社と法人資本																
14	土地所有と地代取得資本																
15	独占資本																
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	○	・小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。						夫 そ の 他 の 工								
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造	○															
授業時間外学修の 内容 と 想 定 時 間	準備学修	[15h] 次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。															
	事後学修	[30h] 講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。															
	想定時間合計	45															
教科書	・森田成也(著)『[新編]マルクス経済学再入門－商品・貨幣から独占資本まで〈下巻〉』(2019年)社会評論社。																
参考書	・資料を適宜配布します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト						40%	○	○	○							
	学期末レポート						50%	○	○	○							
	授業への参加度						10%	○	○	○							
注意事項	・欠席や遅刻は減点対象になります。																
備考	・本講義を受講するにあたって、前もって「政治経済学Ⅰ」を受講・学修することを勧めます。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K532E302		上級ミクロ経済学 (Advanced Microeconomics)						メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択		4	2,3,4	経済学部	前期	月3,火3	日本語		単独									
担当教員	氏名 村山悠																	
	E-mail murayamayu@oita-u.ac.jp 内線 7716																	
授業の概要	この講義の目的は、経済学の最も基本的な枠組みがまとめられたミクロ経済学について、中級レベルの内容を理解することである。主に、家計の消費行動、企業の生産の決定、市場と均衡、独占・寡占などについて学ぶ。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	ミクロ経済学の標準的な計算問題を解けるようになる。							○										
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)								10										
授業の内容																		
1	ミクロ経済学とは何か?ミクロ経済学で使う数学について																	
2	消費の理論(1) 効用関数																	
3	消費の理論(2) 予算制約式																	
4	消費の理論(3) 効用最大化I																	
5	消費の理論(4) 効用最大化2																	
6	消費の理論(5) 所得効果と代替効果																	
7	消費理論の応用(1) 労働供給																	
8	消費理論の応用(2) 消費と貯蓄																	
9	消費理論の応用(3) 不確実性																	
10	消費理論の応用(4) 顕示選好の理論																	
11	企業と費用(1) 等生産量曲線と等費用曲線																	
12	企業と費用(2) 費用曲線																	
13	企業と費用(3) 短期と長期の費用曲線																	
14	生産の決定(1) 利潤最大化問題																	
15	生産の決定(2) 供給曲線																	
16	市場と均衡(1) 完全競争																	
17	市場と均衡(2) 市場価格の調整メカニズム																	
18	市場と均衡(3) 市場取引の利益																	
19	市場と均衡(4) 政策介入のコスト																	
20	市場と均衡(5) 資源配分の効率性																	
21	市場と均衡(6) 厚生経済学の基本定理																	
22	独占(1) 独占企業の行動																	
23	独占(2) 独占と市場																	
24	独占(3) 自然独占と規制																	
25	独占(4) 参入をめぐる競争																	
26	寡占(1) クールノー・モデル1																	
27	寡占(2) クールノー・モデル2																	
28	寡占(3) カルテル																	
29	寡占(4) シュタッケルベルグ・モデル																	
30	まとめ																	
ラーニング	A:知識の定着・確認		○		小テストによる自己評価				エ そ 夫 の 他 の	Moodleの活用								
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		講義資料を読むなどの予習(30時間)															
	事後学修		小テスト・講義内容などの復習(60時間)															
	想定時間合計		90															
教科書	教科書は指定しない。講義資料を使う。																	
参考書	講義中に紹介する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト							20%	○									
	中間試験							40%	○									
	期末試験							40%	○									
注意事項	微分などの数学の知識が必要です。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K532E303		上級マクロ経済学 (Advanced Macroeconomics)					メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択		4	2・3・4	経	後学期	火3, 木4	日本語		単独								
担当教員	氏名 宇野真人																
	E-mail muno@oita-u.ac.jp 内線 7676																
授業の概要	経済活動の中で重要なキーワードがある。それは所得・利子率・為替レートだ。それらは相互に影響し合っている。その関係を理解してもらうことがねらいである。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	公務員試験や経済学検定試験など各種試験レベルの問題を解く力をつけることが目標です。								○								
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)									10								
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	GDPの成り立ち																
3	総需要と総供給(1)																
4	乗数分析(1)-政府支出乗数-投資乗数-貿易乗数																
5	乗数分析(2)-均衡財政乗数-租税乗数																
6	投資と利子率																
7	IS曲線の成り立ちと意味																
8	実質利子率と名目利子率																
9	貨幣の需要と供給と利子率の決まり方																
10	貨幣需要																
11	貨幣供給																
12	金融政策と利子率																
13	LM曲線の成り立ちと意味																
14	IS-LM分析と財政政策が所得と利子率に与える効果																
15	IS-LM分析と金融政策が所得と利子率に与える効果																
16	中間																
17	国際収支について																
18	変動為替相場制と固定為替相場制																
19	マンデルフレミングモデル																
20	マンデルフレミングモデルと財政金融政策の効果																
21	総需要総供給分析																
22	総需要曲線の導出																
23	総供給曲線の導出																
24	政策と物価変動																
25	消費関数の理論(1)																
26	消費関数の理論(2)																
27	消費関数の理論(3)																
28	産業連関分析(1)基礎																
29	産業連関分析(2)基礎																
30	産業連関分析(3)活用																
ラーニング チェック シート	A:知識の定着・確認		○		講義終わりに10分程度の小テストを実施し理解度を高める工夫を行っている。					工 そ 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		本講義で配布する教科書以外にもマクロ経済学の本に触れておくとう理解が早まります。講義前に1.5h 田30回														
	事後学修		小テストや教科書にある練習問題の習った個所について繰り返し解く。講義後に1.5h 田30回														
	想定時間合計		90														
教科書	開始時に配布 ※諸事情で配布については初回に間に合わないことがあります。																
参考書	ガイダンス時に提示																
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト						30%	○									
	中間テスト						30%	○									
	期末テスト						40%	○									
小テストは合計10回の予定																	
注意事項	4単位の講義で、週二回の講義があります。 単位取得希望者は中間テストと期末試験は受験必須です。																
備考	旧課程の「中級マクロ経済学」の名称変更科目のため、同じ内容・同じレベルです。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
K532E307		ゲーム理論 (Game Theory)					メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択		2	2, 3, 4	経	後期	木I	日本語		単独						
担当教員	氏名 下田 憲雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683														
授業の概要	主に経済学の例を用いてゲーム理論の基礎を勉強します。多数の意思決定者相互の戦略的な関係を前提に、個々人がどのような行動を選択するのかを勉強します。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	相互の意思決定が影響し合う状況下での意思決定の問題を認識して、ゲームをプレーするプレイヤーがそれぞれ単独に意思決定							○							
目標2	非協力ゲームのゲームとしての状況を表現する戦略形と展開形ゲームならびに対応するゲームの解を求めることができる。							○							
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度 (計10)							10								
授業の内容															
1	ゲーム理論とは														
2	戦略的思考方・・・選択と意思決定														
3	戦略ゲーム1・・・戦略的思考方と事例紹介														
4	戦略ゲーム2・・・確率的戦略, 経済学での応用事例														
5	ナッシュ均衡1・・・再適応答とは。														
6	ナッシュ均衡2・・・定義と計算方法														
7	ナッシュ均衡3・・・確認テスト1														
8	展開形表現1・・・ゲームの木														
9	展開形表現2・・・展開形表現と戦略形表現の関係														
10	部分ゲーム完全均衡1・・・情報完備性と展開形ゲーム														
11	部分ゲーム完全均衡2・・・逐次手番ゲーム, 確認テスト2														
12	繰り返しゲーム														
13	情報不完備なゲーム														
14	ベイジアン均衡・・・確認テスト3														
15	講義まとめ														
ラ テ ィ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	○	講義内容に対応した問題を解答して提出してもらい、講義においてその解説を行う。					エ そ 夫 の 他 の	事例による理解によって、理論の意味を習得する。						
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストや資料により予習する (30時間)													
	事後学修	練習問題や課題の解答などにより, 復習し知識の定着をはかる (15時間)													
	想定時間合計	45													
教科書	『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ 岡田章 有斐閣 (2014年)														
参考書	『ゲーム理論』新版 岡田章 有斐閣 (2021年)														
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	小テスト・レポート		30%	○	○										
	学期末試験		70%	○	○										
注意事項	理解を確認するため、確認テストを3回程度実施する。														
備考	関連科目：経済数学、統計学、経済学(I、II)、ミクロ経済学、マクロ経済学など														
リンク															
	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K532E308		経済学史 (History of Economics)					メジャー専門科目 対面経済メジャー科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択		2	2,3,4	経	前期	金3	日本語				単独						
担当教員	氏名 田村哲也 E-mail ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7706																
授業の概要	現代経済学における基礎的な枠組みの成り立ちを概観する。授業の前半では、経済学が近代社会のもとで成立したことに注目し、前近代社会の情勢について確認しながらそこで培われてきた経済観を理解することで、近代の産物としての経済学を相対化する。授業後半では、経済学がどのようなものに関心を向けてきたのかを時代背景とともに整理していく。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7	
目標1	経済学が歴史的にどのように展開してきたかを辿ることで、その考え方の基本についての理解を深める。									○			○				
目標2	その展開が多様であったことを把握することで、経済現象の多角的なとらえ方の素養を身につける。									○		○					
目標3	経済学に内在する近代性について把握し、それを相対的に捉える視角を養う									○		○		○			
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)										3		2	3	2			
授業の内容																	
1	ガイダンス、経済学史とは																
2	紀元前ギリシアの思想																
3	聖書における経済観とキリスト教																
4	中世ヨーロッパにおける経済観																
5	宗教改革とプロテスタンティズムの倫理																
6	近代の始まり：社会契約																
7	スミス以前の経済学：重商主義、重農主義																
8	アダム・スミス：分業と必要																
9	デヴィッド・リカード：労働価値説と比較優位																
10	スミス経済学の批判的受容：ドイツ古典派																
11	カール・マルクス：資本主義の運動法則と搾取																
12	限界革命																
13	ケインズ経済学と反ケインズ経済学																
14	経済学と規範理論																
15	まとめ																
ラーニング コンテンツ グループ	A:知識の定着・確認		○		・授業内で議論の時間を設ける。					エ そ 夫 の 他 の	・LMS (Moodle) を活用する。						
	B:意見の表現・交換		○		・毎回課題（ディスカッションを含む）を設け、理解を確認する。												
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造		○														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		配布資料の理解 (15h)														
	事後学修		・復習 (15h) ・課題 (15h)														
	想定時間合計		45														
教科書		・教科書は指定しない。 ・配布資料を用いる。															
参考書		・小峰敦『経済学史 (MINERVAスタートアップ経済学 3)』ミネルヴァ書房、ISBN: 978-4623090839その他適宜紹介する。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験						60%	○	○								
	課題提出						40%	○	○								
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
K532E309		制度の経済学 (Institutional Analysis)					メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択		2	2, 3, 4	経済	前期	金2	日本語		単独									
担当教員	氏名 田村哲也 E-mail ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7706																	
授業の概要	一般に経済学は、合理的な個人を想定し、そうした個人間でおこなわれる取引を分析します。しかし、わたしたちは数多くの「制度」（ルール・予想・規範・組織など）に囲まれており、その影響を常に受けながら意思決定をし、経済活動をおこなっています。この授業のねらいは、そうした「制度」という視点から経済を分析する手法を学ぶことにあります。そのために必要な概念や専門知識について学びながら、日本経済、世界経済の動向を解説していきます。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	私たちの経済活動がどのような制度的影響を受けたものであるのかを把握する。							○						○				
目標2	制度という視点から、私たちが生きる資本主義経済についての理解を深める。							○				○						
目標3	制度について学ぶことで、現代経済の問題を考えられるようになる。							○		○		○		○				
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)								3			2	3			2			
授業の内容																		
1	ガイダンス																	
2	制度とは																	
3	制度とホモ・エコノミクス(1): 諸個人の利潤追求行為																	
4	制度とホモ・エコノミクス(2): 諸個人の他者に対する同感																	
5	制度としての市場																	
6	組織としての企業																	
7	労働分配率の決定																	
8	グローバリゼーション下の企業行動																	
9	国際収支の変化とグローバルな不均衡																	
10	資本主義の多様性と制度的比較優位(1): 経済調整の多様性																	
11	資本主義の多様性と制度的比較優位(2): 制度的補完性と制度的比較優位																	
12	格差と制度(1): 格差の概観とその倫理・哲学的次元																	
13	格差と制度(2): 格差をどのように解消するか																	
14	政治的なものと経済的なもの																	
15	まとめ																	
ニア ンク グ テ ィ ブ ラ ー	A:知識の定着・確認		○		毎回の授業終了後に、Moodle LMS上での「授業の事後課題」の提出を義務づける。その結果を踏まえ、必要と思われる場合には次回の授業の冒頭で取り上げ、補足的な説明を行います。					エ そ 夫 の 他 の		Moodle LMSを活用します。						
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修		配布資料を踏まえての予習(15h)														
		事後学修		授業の事後課題への回答(30h)														
		想定時間合計																
教科書		教科書は指定せず、配布資料を用います。																
参考書		・アブナー・グライフ『比較歴史制度分析 上』ちくま学芸文庫、2021年。ISBN 978-4480510112 ・藤田、北川、宇仁『現代制度経済学講義』ナカニシヤ出版、2023年。ISBN 978-4779517082 他にも適宜紹介する。																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	期末試験						60%	○	○	○								
	授業の事後課題提出						40%	○	○	○								
注意事項																		
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング			授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)				授業形式									
K532E3I0			経済統計学 (Economic Statistics)						メジャー専門科目 経済メジャー科目				対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語				担当形態									
選択		2	2,3,4	経済学部	後期	水2	日本語		英語				単独									
担当教員	氏名 中本 裕哉																					
	E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677																					
授業の概要	国民経済計算(SNA: System of National Accounts)は経済活動を測定する国際的な体系である。本講義では、国民経済計算(SNA)を中心に、さまざまな経済統計がどのような社会経済現象の実態を捉えているのか理解する。さらに、産業連関表の仕組みや産業連関モデルについても学習し、産業連関分析手法を修得する。																					
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7
目標1	国民経済計算体系の基礎を修得する。								○													
目標2	マクロ経済モデルを修得する。								○													
目標3	マクロ経済モデルに基づく経済分析と経済事象の考察ができる。										○			○								
目標4																						
目標5																						
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
各DPへの関連度(計10)									8			1			1							
授業の内容																						
1	ガイダンス																					
2	国民経済計算体系Ⅰ：国内総生産																					
3	国民経済計算体系Ⅱ：国民所得																					
4	物価指数・数量指数Ⅰ：パーシェ指数																					
5	物価指数・数量指数Ⅱ：ラスパイレス指数																					
6	産業連関表Ⅰ：産業連関表の見方																					
7	産業連関表Ⅱ：投入係数と付加価値係数																					
8	産業連関モデルⅠ：レオンチェフ逆行列																					
9	産業連関モデルⅡ：影響力係数と感応度係数																					
10	産業連関モデルⅢ：競争輸入型モデル																					
11	産業連関モデルⅣ：経済波及効果																					
12	接続産業連関表																					
13	環境勘定Ⅰ：排出係数																					
14	環境勘定Ⅱ：フットプリント																					
15	まとめ																					
ラーニングエッセンスグループ	A:知識の定着・確認		○	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。					エ そ 夫 の 他 の													
	B:意見の表現・交換		○																			
	C:応用志向																					
	D:知識の活用・創造																					
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		参考書などを使用して予習する。(15h)																			
	事後学修		授業で扱う例題や小テストなどを通して復習する。(30 h)																			
	想定時間合計		45																			
教科書		教科書を指定しない。																				
参考書		白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの計量経済学(第2版)』日本評論社, 2007年																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	小テスト							30%	○	○	○											
	期末試験							70%	○	○	○											
小テスト、期末試験から総合的に評価する。																						
注意事項	基礎的な行列演算は本講義で解説しますが、入門レベルの線形代数学の理解が必須です。																					
備考																						
リンク																						
	URL																					

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式								
K532E339		サステナビリティのためのEBPM入門 (Introduction to Economic Analysis for EBPM)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	2, 3, 4	経済学部	前期	水5	日本語				複数(共同)、オムニバス							
担当教員	氏名 宇野真人, 大井尚司, 小笠原悟, 小野宏, 下田憲雄, 高見博之, 中本裕哉, 林勇貴, 村山悠 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674																	
授業の概要	経済社会の持続可能性を検討する場合に、市場の役割を補正する政府などの公的部門の役割が重要となります。公的部門が各種の政策を作成、実施する際は、政策の理念だけでなく、データ、理論、歴史的な経緯などの根拠に基づき検討することが必要です。講義形式で開講するこの授業では、全学共通科目のデータサイエンス入門、初級レベルの統計学、ミクロ経済学などを履修した学生が、基礎的なレベルのEBPM(Evidence based policy making)の考え方を修得することを目標とします。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7			
目標1	EBPMとは何かについて説明できる。							○										
目標2	EBPMの重要性について説明できる。							○										
目標3	EBPMに必要な根拠（エビデンス）について説明できる。							○										
目標4	政策等の分析事例をについて根拠（エビデンス）の観点から説明できる。							○										
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
							各DPへの関連度（計10）		10									
授業の内容																		
1	EBPMとは																	
2	EBPMの分析手法																	
3	グリーンなイノベーションについて考える																	
4	需要関数を推計してみよう（計量経済学入門）																	
5	景気動向指数とは																	
6	ミクロ経済学																	
7	応用ミクロ経済学																	
8	過去に行われた経済成長政策のEBPM的検証																	
9	モデル分析とリアル																	
10	財政																	
11	財政政策																	
12	経済政策の考え方																	
13	経済政策																	
14	政策評価																	
15	金融政策																	
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	☐					講義時にテスト、レポートを実施し、内容についての理解を深める機会を設定します。					エ						
	B:意見の表現・交換	☐										そ						
	C:応用志向	☐										夫						
	D:知識の活用・創造	☐										他						
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		政府や企業の政策・意思決定が変化した場合に、どのような根拠に基づいているかを意識して、日本経済新聞、各種ニュースを読むこと。 (20h)															
	事後学修		講義内容の振り返り（25h）															
	想定時間合計		45															
教科書		教科書は設定しません。																
参考書		講義中に適宜提示します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	講義時のテストまたはレポートでの総合評価							100%	○	○	○	○						
注意事項		原則対面での講義です。オンラインでの講義する回がある場合は、事前に説明します。																
備考		講義の内容、講義の順序については変更の可能性があります。変更がある場合は、講義中に説明します。																
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K532E342		社会調査法 (Social Research Method)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	金2	日本語		英語		単独							
担当教員	氏名 中本 裕哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677																
授業の概要	私たちの日常生活では、世論調査、市場調査などの社会調査に触れる機会が多い。しかし、そのような社会調査の手法や調査結果の解釈は必ずしも正確であるとは言えない。重要なことは、調査結果を公正かつ適切に解釈することである。本講義では、調査票調査を中心に社会調査の基本的な方法論を修得する。さらに、実際に調査を実施し、得られたデータに統計分析を適用することで、問題に対する解決策を議論する。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7
目標1	社会調査法の基礎を修得する。							○									
目標2	調査データに統計分析を活用し、問題に対する解決策を議論する。									○		○					
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)								6		2		2					
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	社会調査の企画I：講義																
3	社会調査の企画II：グループ演習																
4	調査の設計I：講義																
5	調査票の設計II：グループ演習																
6	ランダムサンプリング																
7	実査I：講義																
8	実査II：グループ演習																
9	統計分析I：講義																
10	統計分析II：グループ演習																
11	調査データの分析I：講義																
12	調査データの分析II：グループ演習																
13	報告書の作成I：講義																
14	報告書の作成II：グループ演習																
15	まとめ																
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	○	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。					エ そ 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造	○															
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修	参考書などを使用して予習する。(15h)														
		事後学修	授業で扱う例題や小テストなどを通して復習する。(30h)														
		想定時間合計	45														
教科書		教科書を指定しない															
参考書		盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣, 2004年 大谷信介ほか著『(第2 版) 社会調査へのアプローチ ― 論理と方法』ミネルヴァ書房, 2005 年															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト						20%	○									
	中間課題						20%	○	○								
	レポート課題						60%	○	○								
小テスト, 中間課題, レポート課題から総合的に評価する。調査の企画, 設計, 実査, 分析, およびプレゼンテーション, 報告書の作成は, グループワークで行う。																	
注意事項		「統計学」を履修していると理解が深まりますが、基礎的な統計手法は本講義で修得します。受講者には、グループワークへの積極的な参加（特に、自分の考えを発信すること）を求めます。															
備考																	
リンク																	
		URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K522E204		経済史 (Economic History)					学部基盤科目 経済メジャー系		対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択		2	2,3,4	経	前期	金2	日本語		単独							
担当 教員	氏名 安永 雅															
	E-mail 内線															
授業 の 概 要	この授業では、世界経済のこれまでの展開（授業前半）と経済史をめぐる諸テーマ（授業後半）の講義を通して、経済がどのように歴史的に変化してきたのか、経済史が私たちの生活にどのように関連するのかを学びます。															
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	経済史の基礎的な知識を習得する。							○	○							
目標2	経済史を捉え方の多様性を理解する。							○	○				○			
目標3	歴史的事象を現代の問題と関連づけて考える。							○	○	○						
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度（計10）								4	2	2		2				
授業の内容																
1	経済史の対象：経済と歴史															
2	経済史の方法：これまでの経済史学のあゆみ															
3	通史① 経済社会の生成：古代・中世・近世の経済															
4	通史② 市民革命：近代化と経済															
5	通史③ ヨーロッパの工業化：経済発展															
6	通史④ 19世紀後半～20世紀前半：発展・恐慌・統制															
7	通史⑤ 福祉国家：戦後の経済															
8	通史⑥ グローバル化：1970年代以降の転換															
9	テーマ① 国家と経済・経済政策史															
10	テーマ② 経済制度の歴史															
11	テーマ③ グローバル・ヒストリー															
12	テーマ④ アジアの経済史															
13	テーマ⑤ エネルギーと経済の歴史															
14	テーマ⑥ イデオロギーと経済の歴史															
15	総括：経済史と現代経済															
ニア ンク グ テ ィ ブ ラ ー	A:知識の定着・確認	○	・講義後に簡単なリアクションペーパーを配布し、それを授業の復習、授業への質							エ そ 夫 の 他 の						
	B:意見の表現・交換	○	問、要望の機会として活用してもらいます。													
	C:応用志向	○	・学期中のレポート課題の際、資料や文献の探し方について説明、相談する機会を設けます。													
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	講義スライドの予習を通して、各講義で扱う内容を把握する。（15h）														
	事後学修	講義スライドを復習するとともに、参考書に目を通して内容の理解を深める。（30h）														
	想定時間合計	45														
教科書	授業前に講義スライドを配布します。															
参考書	各回の講義スライドに、テーマごとに関連する参考書を記載します。その他、資料として使えるものに、 大阪市立大学経済研究所（編）『経済学辞典 第3版』岩波書店、1992年 社会経済史学会（編）『社会経済史学事典』丸善出版、2021年 三和良一、原朗（編）『近現代日本経済史要覧 補訂版』東京大学出版会、2010年、などがあります。															
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	レポート課題		30%	○	○	○										
	学期末試験		70%	○	○	○										
注意事項																
備考																
リンク																
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K532E311		SDGsセミナー (SDGs Seminar)					メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択		2	2,3,4	経	後	金3	英語		単独								
担当教員	氏名 柴田 茂紀(経)																
	E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715																
授業の概要	The aim of this course is to give students a series of basic knowledge about global economies.																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	Obtained basic knowledge regarding globalization							○	○								
目標2	Become capable at evaluating economic policies in this domain.							○	○								
目標3	Improved their ability to participate in discussions.							○	○								
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)								5	5								
授業の内容																	
1	Introduction																
2	The concepts of global economy																
3	Selected case studies of global economies (article 1)																
4	Selected case studies of global economies (article 2)																
5	Selected case studies of global economies (article 3)																
6	Selected case studies of global economies (article 4)																
7	Global problems (article 5)																
8	Global problems (article 6)																
9	Global problems (article 7)																
10	Global problems (article 8)																
11	Global problems (article 9)																
12	The relationship between Japan and global economy (article 10)																
13	The relationship between Japan and global economy (article 11)																
14	The relationship between Japan and global economy (article 12)																
15	Conclusion																
ライク ニテ ンイ グブ	A:知識の定着・確認	○	Students need to read assignments before coming to class.					エ そ 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向	○															
	D:知識の活用・創造	○															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	Read the appropriate material before coming to class(25h)															
	事後学修	Homeworks to cover this class(20h)															
	想定時間合計	45															
教科書	To be provided by lecturer																
参考書	To be provided by lecturer																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	class-based exercises		50%	○	○	○											
	presentations		50%	○	○	○											
注意事項	This course will consist of lectures, discussions and presentations.																
備考	この授業は留学生が参加する可能性があり、すべて英語で実施します。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K532E3I2		国際貿易論 (International Trade Theory)					メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択	2	2,3,4	経	前期	火3	日本語		単独									
担当教員	氏名 柴田 茂紀																
	E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715																
授業の概要	1) 国際貿易の考え方や現状についての理解を深める。																
	2) 「現実」を考えるための「理論」を学ぶ。																
	3) 貿易という側面から、現在の「国際経済を見る眼」を養う。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	国際貿易が過去から現在まで、どのように展開してきたのか理解する。							○									
目標2	国際貿易理論の意味と背景、その現実性を理解する。							○									
目標3	国際貿易に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。							○				○					
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
							各DPへの関連度(計10)		8				2				
授業の内容																	
1	国際貿易論の範囲																
2	国際貿易論の基礎理論Ⅰ(絶対優位と比較優位)																
3	国際貿易論の基礎理論Ⅱ(ヘクシャー＝オリーン・モデルとその後の展開)																
4	国際貿易の歴史と理論																
5	国際貿易の歴史と制度																
6	現在の国際貿易システム																
7	進展する地域間貿易																
8	中間のまとめとテスト																
9	国際収支とは何か																
10	国際収支から見えるもの																
11	国際貿易の事例研究																
12	直接投資の考え方																
13	直接投資と国際貿易との関係																
14	直接投資の事例研究																
15	まとめ																
ラフィクニテイング	A:知識の定着・確認		○	・授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。					エ そ 夫 の 他 の	・欠席した場合は、授業支援システム(moodle)で提示した問題を通じて自習する。							
	B:意見の表現・交換			・授業終了後に、大学のオンライン学習システム(Moodle)で補足事項をまとめておきます。自習の際、利用して下さい。													
	C:応用志向		○														
	D:知識の活用・創造		○														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		必要に応じて、授業支援システム(moodle)で提示(20h)														
	事後学修		授業で学んだことを活用し、授業支援システム(moodle)で提示した問題を通じて復習する。(25h)														
	想定時間合計		45														
教科書	配布物に基づいて授業を進める。																
参考書	必要に応じて指示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	平常点					60%	○	○	○								
	期末試験(またはレポート)					40%	○	○	○								
新型コロナの状況次第で期末レポートになる可能性もあります。																	
注意事項		1) 欠席回数に応じて課題がある(遅れを取り戻す措置) 2) ほぼ毎回、小テストを実施する 3) 平常点は、小テスト・中間テスト・レポートの点数で計算する															
備考		出席重視・積み上げ方式で進めます。															
リンク																	
		URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式								
K532E3I3		世界経済論 (World Economy)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	2,3,4	経	後期	火3	日本語			単独								
担当教員	氏名 柴田 茂紀																	
	E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715																	
授業の概要	1) 世界経済を理解する上での基礎理論を学ぶ(理論分析)。 2) 世界経済の構造や現状についての理解を深める(現状分析)。 3) 幅広い観点から「世界経済を見る眼」を養う(多角分析)。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	世界経済の展開を理解する。							○										
目標2	近年の世界経済の特徴を理解する。							○										
目標3	世界経済に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。							○					○					
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)								8					2					
授業の内容																		
1	世界経済論の分析対象																	
2	グローバル化の特色と変化																	
3	技術革新とグローバル化																	
4	情報化とグローバル化																	
5	経済格差とグローバル化																	
6	「コーヒー」から考えるグローバル化																	
7	フェアトレードの課題と可能性																	
8	「カネ」の移動から考えるグローバル化																	
9	為替レートの考え方(円高と円安、名目為替レートと実効為替レート)																	
10	為替レートの基礎理論(購買力平価とアセットアプローチ)																	
11	為替制度(変動相場制と固定相場制)																	
12	国際経済統計の分析方法																	
13	「マクドナルド」から考えるグローバル化																	
14	グローバル経済の事例紹介																	
15	まとめ																	
ライク ニテ ンイ グブ	A:知識の定着・確認	○	・授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。 ・授業終了後に、大学のオンライン学習システム(Moodle)で補足事項をまとめておきます。自習の際、利用して下さい。					エ そ 夫 の 他 の	・欠席した場合は、オンライン学習システム(moodle)を通じて該当部分を自習することになります。									
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向	○																
	D:知識の活用・創造	○																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	必要に応じて、授業支援システム(moodle)で提示(20h)																
	事後学修	授業で学んだことを活用し、オンライン学習システム(moodle)で提示した問題を通じて復習する。(25h)																
	想定時間合計	45																
教科書	配布資料に基づいて授業を進める。																	
参考書	授業を通じて紹介する。																	
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	平常点						60%	○	○									
	期末試験						40%	○	○									
注意事項	1) 理由に関係なく、欠席回数に応じて課題がある(遅れを取り戻す措置)。 2) ほぼ毎回、小テストを実施する。 3) 平常点は、小テスト・中間テスト・レポートの点数で計算する。																	
備考	出席重視・積み上げ方式で進めます。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K532E3I5		開発ミクロ経済学 (Development Microeconomics)					メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択必修	2	2,3,4	経済	前期	金4	日本語		英語		単独						
担当教員	氏名 木村 雄一															
	E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689															
授業の概要	2019年にノーベル経済学賞を受賞した開発ミクロ経済学のスター研究者2人による研究サーベイ『貧乏人の経済学』から、貧困の原因と低所得層の厚生改善について、最近20年ほどに蓄積された新しい知見を学ぶ。															
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	貧困の原因と貧困削減について、1) 各トピックについて重要な問題設定を把握する。							○								
目標2	2) 実証ミクロ経済学の実証研究の方法に触れる。							○		○						
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)								7		3						
授業の内容																
1	Banerjee and Duflo 1章 貧困の罠と永続的貧困、マイクロデータと実験経済学															
2	B-D 2章 栄養の貧困の罠？(1)：栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原因になっているか															
3	B-D 2章 栄養の貧困の罠？(2)：栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原因になっているか															
4	教育投資(1) 子どもへの教育投資はどのように決まるか：教育のミクロ経済学															
5	教育投資(2) キュメンタリー『バーミヤンの少年』教育投資と資金制約															
6	教育投資(3) 教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか？Banerjee and Duflo スライド1															
7	教育投資(4)：教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか？Duflo and Duflo スライド2															
8	ディスカッション															
9	女性の労働供給と社会的地位(1)：Robert Jensen QJE 2012															
10	女性の労働供給と社会的地位(2)：Robert Jensen QJE 2012															
11	女性の労働供給と社会的地位(3)：The Economist (July 7th 2018) How India Fails Its Women.															
12	B-D 5章 出産選択と所得(1)：子沢山が低所得の原因になっているか？															
13	B-D 5章 出産選択と所得(2)：子沢山が低所得の原因になっているか？															
14	B-D 5章 出産選択と所得(3)：子沢山が低所得の原因になっているか？															
15	ディスカッション															
ラーニング エシ ン グ	A:知識の定着・確認		Moodle コメント欄に、受講者は基本的に全員が毎回、講義の議論内容に関する質問やコメントを記入する。次回の講義でフィードバックし、議論の発展を図る。					エ そ 夫 の 他 の								
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		教材の該当箇所を事前に読むことを推奨する(15h)。													
	事後学修		当該箇所の復習、関連文献の内容の理解(15h)、期末試験の内容準備(15h)。													
	想定時間合計		45													
教科書	【教科書】アビジット・バナジー、エスター・デュフロ 2011『貧乏人の経済学：もう一度貧困を根っこから考える』みすず書房。(Abijit Banerjee and Esther Duflo 2009. Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty. PublicAffairs, Paper back / Kindle)															
参考書	The Economist(“Indian schools: Now make sure they can study”(June 10th 2017). ((“How india fails its women?”(July 7th 2018) Robert Jensen 2012, “Do Labor Market Opportunities Affect Young Women’s Work and Family Decisions?” Quarterly Journal of Economics. 社会規範の持続・変化(Moral persistence)について諸論文															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験。					90%										
	質問、コメントにボーナススコアが付与される					10%										
出席要件を適用する。基準を満たした受講者が期末試験を受けることができる。																
注意事項																
備考	教材は全て pdf を Moodle で配布する。															
リンク																
	URL															

ナンバリング			授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)				授業形式						
KI43E406			EUの政治経済 (Politics and Economics in EU)					経済学科 経済学科				対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語			担当形態						
選択		2	3・4	経済学部	前期	木3	英語					単独						
担当教員	氏名　デイ・スティーブン																	
	E-mail　srday@oita-u.ac.jp　内線　6676																	
授業の概要	The goal of this module is to provide learners with: an in-depth understanding of the historical and contemporary development of the European Union (EU). This will include looking at some of the EU's key institutions, a selection of EU policies, and the process and impact of Brexit. At a time when the EU is facing multiple internal and external challenges, within and beyond its borders, this class will also seek to uncover the reasons behind these challenges.																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	Build up a knowledge and understanding of the EU																	
目標2	Facilitate an ability to critically discuss and evaluate the process of European integration																	
目標3	Understand why the EU faces a myriad of challenges and how it deals with those challenges																	
目標4	Understand and evaluate the Brexit and its impact on the UK																	
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)								3	3	1	1	1	1					
授業の内容																		
1	Introductory overview - the importance of critical thinking																	
2	Historical background - key events prior to WWII																	
3	Historical background - building European unity from the ashes of WWII																	
4	What is the EU? What does it do?																	
5	Thinking about EU integration - from an FTA to a Common Market																	
6	Thinking about EU integration - is the EU heading towards a political union?																	
7	Dealing with Internal Challenges - the EU in the 2020s																	
8	Dealing with External Challenges - the EU in the 2020s																	
9	Case Study - EU policies aimed at fostering an EU identity																	
10	Case Study - The EU on the world stage																	
11	Case Study - European parliamentary elections 2019																	
12	Case Study - European parliamentary elections 2024																	
13	Case Study - The historical relationship between the UK and the EU																	
14	Case Study - Remembering Brexit																	
15	Case Study - The EU and the UK post-Brexit																	
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	○	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluations of various types of media reports.					エ そ の 他 の	Students will be expected to keep a class log. 今日学んだこと　内容の概略、感想、疑問に思ったことなど What you learned today; overview of class; impressions; issues you wondered about									
	B:意見の表現・交換	○																
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造	○																
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	(30 hours) - Please review preparatory materials prior to the class. This will include reading newspaper/magazine articles and listening to MP3 files in order to build up your background knowledge of European history and EU affairs.																
	事後学修	(15 hours) - Update the class log. Check related documents. Re-Watch and review the news/documentary programmes highlighted in class.																
	想定時間合計	45																
教科書	For beginners - John Pinder and Simon Usherwood (2018), The European Union: a very short introduction, (4th edition) Oxford: Oxford University Press. ISBN-13: 978-0198808855 A useful textbook for Japanese readers - EU[第4版]: 欧州統合の現在　-　創元社 2020. ISBN-13 : 978-4422300801																	
参考書	Additional material will be provided in class																	
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	Final Assessment						70%	○		○								
	Class-based exercises						20%	○	○	○	○							
	Class diary						10%				○							
注意事項	As this class is taught in English TOEIC500 or EIKEN level 2 is recommended. このクラスは英語で行われるため、TOEIC500または英検2級を推奨します。																	
備考	Preparatory reading prior to class so as to facilitate discussion will be expected. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/ (分野)		授業形式							
K53IE3I7		グローバルスタディ入門 (Introduction to Global Studies)					全学共通科目 文化・国際		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	1, 2, 3, 4	経済学部	後期	木3	英語		単独								
担当教員	氏名 デイ スティーブン E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676															
授業の概要	The purpose of this module is to provide learners with an understanding of global issues and the impact of globalization from a political and economic perspective. Through the lens of political science, we will analyze and evaluate the historical and contemporary world around us as we grapple with questions such as: 1) How might we explain globalization? 2) Is the world turning away from globalization? 3) How might we explain the rise of populist political parties? 4) Do global problems require global solutions? 5) What lessons can we learn from peace-building?															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	Develop a knowledge and awareness of global issues						○				○			○		
目標2	Provide the means to comment upon developments in a critical and lucid fashion						○	○	○	○	○	○				
目標3	Evaluate and dissect key issues and different schools of thought surrounding the globalization debate.						○	○	○	○			○			
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度 (計10)							4	2	1	1	1	1				
授業の内容																
1	Introductory remarks															
2	SDG-16 and the importance of critical thinking skills															
3	Uncovering the dynamics of political and economic change															
4	Interpreting globalization - hyperglobalists, sceptics and transformationalists															
5	Remembering the Cold War															
6	Key political and economic developments 1945-1989															
7	Revisiting 1989 - the end of history?															
8	2020s - are we witnessing the end of western dominance?															
9	Political, economic and philosophical issues from the movies															
10	Case Study - National borders in a globalized world															
11	Case Study - National citizens and global citizens															
12	Case Study - Peacebuilding in Northern Ireland															
13	Case Study - Environmental and technological challenges															
14	Case Study - Populism and Democracy in the EU															
15	Where next for globalization?															
ラーニング エッセンス マップ	A:知識の定着・確認	○	As an interactive class there will be a number of individual and small-group				エ そ 夫 の 他 の	Students will be expected to keep a class log. 今日学んだこと 内容の概略、感想、疑問に思ったことなど What you learned today; overview of class; impressions; issues you wondered about								
	B:意見の表現・交換	○	task-based exercises. This will include: quizzes, crosswords, exercises in													
	C:応用志向		applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media													
	D:知識の活用・創造	○	reports.													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	(30 hours) - Please review the preparatory materials prior to the class. This will include reading, listening to MP3 files and watching programmes about global politics. Seek out Japanese language material in order to build up your background knowledge of global events.														
	事後学修	(15 hours) - Update the class log. Check related documents. Watch and review the news/documentary programmes highlighted in class.														
	想定時間合計	45														
教科書	Manfred B. Steger (2023), Globalization: A Very Short Introduction, (6th edition) Oxford: Oxford University Press. ISBN-13: 978-0192886194															
参考書	Additional material will be distributed during the course of the module															
成績評価の方法 及び 評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	Final Assessment		70%	○	○											
	Class-based exercises		30%	○	○	○										
注意事項	Learners will be expected to have a determination to study in English and a willingness to participate in classroom-based activities and discussion in English.															
備考	Preparatory reading prior to class so as to facilitate discussion will be expected. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.															
リンク																
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)				授業形式						
K532E3I8		現代国際関係論 (Contemporary International Relations)						メジャー専門科 経済メジャー科目				対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	2,3,4	経済	前期集中	他	日本語				単独							
担当教員	氏名 高山 英男 (非常勤講師)																	
	E-mail koyama@oita-u.ac.jp 内線																	
授業の概要	ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルによるガザへの侵攻など冷戦が終わってから30年が過ぎてもなお、世界の各地では戦争が終わりません。冷戦終結後、アメリカの極覇権体制が形成され、世界は平和になると思われましたが、アメリカの覇権の力が弱まるにつれて、それぞれの地域で、軍事力を持った大国が自国の利益を追及する事態となっています。このような国際情勢をどのような視点から見ていくかということや、何が重要な問題かなどについて一緒に考えていきます。																	
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7
目標1	目標1(国際関係の理論については、現在の国際関係を理解するための3つのアプローチについて解説します。											○						
目標2	現代の国際関係を構造的に理解します。										○							
目標3	現代の国際関係の主要問題を検討し、その解決の在り方を考えます。										○							
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)											6	4						
授業の内容																		
1	はじめに：講義の目標と狙いについて																	
2	国際関係論のアプローチ（1） リアリズムのアプローチ																	
3	国際関係論のアプローチ（2） リベラリズムのアプローチ																	
4	国際関係論のアプローチ（3） マルクス主義のアプローチ																	
5	国際関係の構造（1）																	
6	国際関係の構造（2）																	
7	国際関係の構造（3）																	
8	政治体制と国際関係：民主主義のグローバル化																	
9	国際連合の役割とその未来（1）																	
10	国際連合の役割とその未来（2）																	
11	地域統合（1）																	
12	地域統合（2）																	
13	核兵器の廃絶（1）																	
14	核兵器の廃絶（2）																	
15	講義のまとめ																	
ラーニング シグ グ	A:知識の定着・確認	より深く学ぶためには、テキストを読むだけでなく、参考書を読んだり						エ そ 夫 の 他 の	新聞の切り抜きなどを使い、具体的な事件の理解を深める。									
	B:意見の表現・交換	、ニュースを見て、今日の重大事件のことを勉強してください。																
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストを読んで、わからないところを書き出し、自分で調べてみる。（1.5hB15回）																
	事後学修	レジュメを読み返し、参考文献を読んでノートにまとめよう。（1.5hB15回）																
	想定時間合計	45																
教科書	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・村山信将『国際政治をつかむ』第3版、有斐閣、2023年。																	
参考書	講義の中で指示します。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート		100%															
注意事項	テキストを読んで講義に参加しましょう。																	
備考	ウクライナ戦争やガザ紛争などの重大事件が起きています。国際関係論を利用して考えてみましょう																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式								
K532E319		現代国際関係史 (International Political History)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	2,3,4	経済学部	後期集中	他	日本語				単独							
担当教員	氏名 高山 英男 (非常勤講師)																	
	E-mail koyama@oita-u.ac.jp 内線																	
授業の概要	現在の国際政治の構造をアメリカの一極覇権体制と捉えて、冷戦後にその体制がどのように形成され、維持されてきたかと言うことを焦点として、10年ごとに時代を輪切りにして、アメリカ、ロシア、中国、EUの4つの主体の政治外交戦略について概説します。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7		
目標1	アメリカの冷戦後の戦略について理解する。										○							
目標2	ロシアの冷戦後の政治外交戦略について理解する									○								
目標3	中国の冷戦後の政治外交戦略について理解する。									○								
目標4	EUの冷戦後の統合戦略について理解する。																	
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)										6	4							
授業の内容																		
1	はじめに：講義の目標とねらいについて																	
2	アメリカ保守革命の世界戦略（1）																	
3	アメリカ保守革命の世界戦略（2）																	
4	アメリカ保守革命の世界戦略（3）																	
5	アメリカ保守革命の世界戦略（4）																	
6	冷戦終結後の新世界秩序の模索（1）																	
7	冷戦終結後の新世界秩序の模索（2）																	
8	冷戦終結後の新世界秩序の模索（3）																	
9	冷戦終結後の新世界秩序の模索（4）																	
10	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて（1）																	
11	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて（2）																	
12	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて（3）																	
13	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて（4）																	
14	現段階の世界政治の構造																	
15	まとめ																	
ライク ニテ ンイ グブ	A:知識の定着・確認		より深く学ぶためには、テキストを読むだけではなく、参考書も読むようにして下さい。					エ そ 夫 の 他 の	新聞の切り抜きなどを使って、具体的な事件の説明をする。									
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		テキストを読んでくるとともに、わからないところを調べる。（1.5h 15回）															
	事後学修		レジュメを読み直して、ノートと比較し、参考文献を読む。（1.5h 15回）															
	想定時間合計		45															
教科書		小川浩之・板橋拓己・青野利彦著『国際政治史』有斐閣、2018年。																
参考書		そのつど講義中に指示します。																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	レポート						100%											
注意事項		ムードル上にレポート課題や期日などを示しますので、気をつけてください。																
備考		アメリカは戦後世界をリードしてきた覇権国家です。大統領の戦略や具体的な政策が日本だけでなく、世界中の国々に影響を与えます。関心を持って勉強してください。																
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式									
K532E32I		労働経済論 (Labour Economics)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	2, 3, 4	経	後期	木4	日本語				単独								
担当教員	氏名 石井まこと																		
	E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698																		
授業の概要	社会・経済は人が働くことで成り立っています。人が仕事を見つける労働市場はどういう特質をもち、賃金はどうやって決まるか、また職場の問題など、人々の仕事全体を経済学的に分析することが労働経済論の課題です。その分析対象は「労働力商品」ですが、それは働く人間と切り離すことができないのであり、そこに経済学における労働経済論の特質があるといえます。この講義では、「仕事」をめぐる社会的な仕組みを分析するための基本的枠組みを理解できるようになるとともに、市場と制度・慣行の組み合わせでかたちづけられる「雇用システム」について議論したいと思います。こうした講義を通じて、社会で働くうえでの基本的仕組みも理解することをめざします。																		
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	労働・仕事をめぐる経済活動の歴史と現代へのつながりを理解できる。								○	○	○	○		○					
目標2	雇用関係や労働市場の概念が理解できる。								○		○	○		○					
目標3	労働問題が生活問題と相関していることを理解できる。								○		○	○	○	○					
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度(計10)									2	1	2	2	1	2					
授業の内容																			
1	イントロダクション																		
2	雇用関係の歴史																		
3	労働政策の歴史																		
4	現代の労働政策																		
5	労働市場政策の変遷																		
6	現代の労働市場問題																		
7	資本主義と賃金																		
8	現代の賃金問題																		
9	労働時間の長時間化・過労死問題																		
10	労働時間の多様化																		
11	労使関係の歴史																		
12	労使関係とジェンダー																		
13	キャリア形成と教育																		
14	労働災害の捉え方																		
15	総括																		
ラーニング エッセンス グループ	A:知識の定着・確認		○		授業内での質疑やコメントペーパーの提出、あるいはグループ討議を行います。						エ そ 夫 の 他 の								
	B:意見の表現・交換		○																
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造		○																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		レジュメ・参考文献の予習(22.5時間:1回1.5時間)。																
	事後学修		授業振り返り(22.5時間:1回1.5時間)。																
	想定時間合計		45																
教科書	レジュメを用意します。																		
参考書	石井まこと・所道彦・垣田裕介(2024)『社会政策入門』法律文化社。 石井まこと・江原慶編(2024)『多様化する現代の労働―新しい労働論の構築に向けて―』法律文化社。平澤克彦・中村艶子編(2021)『ワークライフ・インテグレーション』ミネルヴァ書房。 長田華子・金井郁・古沢希代子編(2023)『フェミニスト経済学』有斐閣。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法								割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業内レポート								50%	○	○	○							
	期末レポート								50%	○	○	○							
授業内レポートは毎回講義終了前に課題を出します。																			
注意事項																			
備考																			
リンク																			
	URL																		
担当教員の 実務経験の有無	○																		
教員の実務 経験	大原記念労働科学研究所での研究員(1995.4~1998.3)																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
KI43E408		労使関係論 (Labor-Management Relations Theory)					経済学科 経済学科			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択		2	2,3,4	経済	後期	火3	日本語				単独						
担当教員	氏名 石井 まこと																
	E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698																
授業の概要	労働条件は、たとえば春闘のように労働組合と企業の交渉＝集团的労使関係で決まっていますが、近年、こうした集团的な決定が衰退化し、労働市場における個別での決定に傾いています。この授業ではこうした個別化が労働者と社会に与える影響を考えていきます。そのために、まず、労使関係によって労働条件が変化することを理解し、労使関係の発展史を検討し、あわせて国際比較により日本の労使関係の特徴を紹介していきます。その上で、ワークショップ形式により、労使関係が我々の人生のなかで、いかなる可能性を持ちうるのか考えていきます。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7	
目標1	日本の労使関係の諸特徴を説明できる。						○						○	○			
目標2	労使関係の発展史を説明できる。						○						○	○			
目標3	労使関係を自分事の問題とし、解決に向けた行動の重要性を理解できる。						○	○	○		○		○	○			
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)							3	1	1		1		2	2			
授業の内容																	
1	労使関係はどういう学問か																
2	日本の労使関係の特徴と形成(1)－近代																
3	日本の労使関係の特徴と形成(2)－現代																
4	賃金問題と労使関係																
5	集团的労使関係の変化と労働市場																
6	人事管理の変化と労使関係																
7	企業別組合と労使関係																
8	組織化の課題																
9	日本の経営者・経営者団体と労働組合																
10	政府と労使関係																
11	国際化が変える労使関係とは																
12	デモ・ストライキで変える労働・生活条件－ワークショップ(1)																
13	就職活動と労使関係－ワークショップ(2)																
14	地方で賃上げをする意義－ワークショップ(3)																
15	総括																
フィードバック	A:知識の定着・確認	○	この講義では毎回Moodle上および対面で、可能な限り質問に答えていきます。 数回3－4人のグループ討論(ワークショップ)によるレポート作成を行います(事前にアナウンスします)。 また、労使関係に関する映画鑑賞によるレポート作成を行う予定です。					エ ス 夫 の 他 の	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。								
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向	○															
	D:知識の活用・創造	○															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	レジュメ・参考文献の予習(22.5時間:1回1.5時間)。															
	事後学修	授業振り返り(22.5時間:1回1.5時間)。															
	想定時間合計	45															
教科書	毎回レジュメを配布します。																
参考書	富田義典・花田昌宣・チッソ労働運動史研究会(2021)『水俣に生きた労働者』明石書店。その他適宜、講義中に紹介します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業内レポート						30%	○	○	○							
	期末テスト						70%	○	○	○							
注意事項	授業時間中に適宜、質問時間をとります。積極的に聞いてください。																
備考																	
リンク																	
	URL																
担当教員の 実務経験の有無	○																
教員の実務経験	大原記念労働科学研究所での研究員(1995.4～1998.3)																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式									
K522E205		社会政策論Ⅰ (Social Policy Ⅰ)					学部基盤科目 経済メジャー系			対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態									
選択		2	2,3,4	経	前期	金Ⅰ	日本語			単独									
担当教員	氏名 石井まこと																		
	E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698																		
授業の概要	社会政策とは「生活と労働が維持されるように、市民や政府が作り出す施策」です。労働問題、労使関係、社会保障、社会福祉、女性学、ジェンダー研究、生活問題など幅広い領域を対象にしています。主として仕事と暮らしに関わる問題について、社会問題をいかにとらえるべきか、いかなるアプローチをとるべきかを議論している学問体系です。こうした社会問題のとらえ方を本講義では学んでもらいます。																		
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7			
目標1	社会政策が取り扱う問題に対して、自分事として考えられる。									○	○	○	○	○	○				
目標2	新聞・各種メディアの報道を鵜呑みにせず、客観的な判断ができる。									○				○	○				
目標3	社会問題を解決する行動の重要性を理解できる。									○	○	○	○	○	○				
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度 (計10)										2	1	2	1	2	2				
授業の内容																			
1	オリエンテーションー人生と社会政策																		
2	私たちの生活と社会政策																		
3	子ども期の社会政策																		
4	進路選択期の社会政策																		
5	成人期・壮年期の社会政策																		
6	高齢期の生活を支える社会政策																		
7	仕事をめぐる社会政策																		
8	結婚と子育て																		
9	住まい																		
10	保険医療・介護																		
11	生活困窮と社会政策																		
12	社会政策に関する映画鑑賞とワークショップ(1)																		
13	生活問題と社会政策ーワークショップ(2)																		
14	労働問題と社会政策ーワークショップ(3)																		
15	福祉問題と社会政策ーワークショップ(4)																		
ニアシ ンク グ レ イ ブ ラ ー	A:知識の定着・確認	○	この講義では毎回Moodle上および対面で、可能な限り質問に答えていきます。					エ そ 夫 の 他 の	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。										
	B:意見の表現・交換	○	数回3－4人のグループ討論(ワークショップ)によるレポート作成を行います																
	C:応用志向	○	(事前にアナウンスします)。																
	D:知識の活用・創造	○	また、社会問題に関する映画鑑賞によるレポート作成を行う予定です。																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		教科書予習(22.5時間:1回1.5時間)。																
	事後学修		授業振り返り(22.5時間:1回1.5時間)。																
	想定時間合計		45																
教科書	石井まこと・所道彦・垣田裕介編(2024)『社会政策入門ーこれからの生活・労働・福祉ー』法律文化社。																		
参考書	石井まこと・江原慶編(2024)『多様化する現代の労働ー新しい労働論の構築に向けてー』法律文化社。平澤克彦・中村艶子編(2021)『ワークライフ・インテグレーション』ミネルヴァ書房。 石井まこと・宮本みち子・阿部誠編(2017)『地方で生きる若者たち』旬報社。 石井まこと・兵頭淳史・鬼丸朋子編(2010)『現代労働問題分析ー労働社会未来を拓くためにー』法律文化社。 その他講義中に紹介していきます。																		
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	授業内レポート							30%	○	○	○								
	期末テスト							70%	○	○	○								
注意事項	教科書が必要です。購入の上、受講をお願いします。																		
備考																			
リンク																			
	URL																		
担当教員の 実務経験の 有無	○																		
教員の 実務 経験	大原記念労働科学研究所での研究員(1995.4～1998.3)																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
K532E320		社会政策論Ⅱ (Social Policy Ⅱ)					メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択		2	2, 3, 4	経	後期	他	日本語		複数(共同)						
担当教員	氏名 石井まこと、三好禎之														
	E-mail mak@oita-u.ac.jp (石井)、miyoshi-yoshiyuk@oita-u.ac.jp (三好) 内線 7698 (石井)、7696 (三好)														
授業の概要	社会政策は、労働問題、労使関係、社会保障、社会福祉、女性学、ジェンダー研究、生活問題など幅広い領域を対象にしています。主として仕事と暮らしに関わる問題について、社会問題をいかにとらえるべきか、いかなるアプローチをとるべきかを議論している学問体系です。本講義では、社会政策論Ⅰで展開した総論をふまえ、具体的に展開する社会問題を取り上げ、人生（ライフコース）のなかでの社会政策の意義と課題をみていきます。														
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	社会政策が取り扱う問題に対して、自分事として考えられる。								○	○	○	○	○	○	
目標2	新聞・各種メディアの報道を鵜呑みにせず、客観的な判断ができる								○		○		○	○	
目標3	社会問題を解決する行動の重要性を理解できる。								○	○	○	○	○	○	
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度（計10）									2	1	2	1	2	2	
授業の内容															
1	ガイダンスー良質の社会政策をいかに生み出すのか														
2	賃金問題の国際比較：日本はなぜ賃金が低いのか？														
3	最低賃金制度と最低生計費：生活を支える制度とは？														
4	働きすぎを変えるには：長時間労働はなぜなくなるらない？														
5	過労死・過労自殺はなぜなくなるらない？														
6	女性労働と生活・日本経済														
7	地域で暮らす：自営業の展望と課題														
8	日雇い労働はいかに日本社会を支えたかー釜ヶ崎日雇い労働者に着目してー														
9	路上生活の実態ーホームレスは如何にして路上生活から脱却できるかー														
10	地域社会の介護問題ー複合化する生活問題の行方ー														
11	現代社会における介護人材問題ー外国人労働者はいかに介護人材の担い手になり得るかー														
12	水俣の生活破壊と創生ー日本社会における犠牲のシステムー														
13	水俣による内発的発展の展開ー「合力」による生活保障の展開ー														
14	地域共生社会の実現ー何人たりとも排除しない社会を目指してー														
15	総括														
ラディケーション	A:知識の定着・確認	○	授業内での質疑やコメントペーパーの提出、あるいはグループ討議を行います。					エ そ 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換	○													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造	○													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	授業資料の予習（22.5時間：1回1.5時間）。													
	事後学修	授業振り返り（22.5時間：1回1.5時間）。													
	想定時間合計	45													
教科書	レジュメを用意しますが、社会政策論Ⅰで使用した石井まこと・所道彦・垣田裕介（2024）『社会政策入門』法律文化社を一部使用します。														
参考書	石井まこと・所道彦・垣田裕介（2024）『社会政策入門』法律文化社。 石井まこと・江原慶編（2024）『多様化する現代の労働ー新しい労働論の構築に向けてー』法律文化社。 平澤克彦・中村艶子編（2021）『ワークライフ・インテグレーション』ミネルヴァ書房。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法				割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	各講義終了後のレポート				100%	○	○	○							
注意事項	毎回小レポートを作成してもらい、その15回分の積み上げ評価を行います。なお、社会政策関連の追加セミナーを開催しレポート実施する場合があります。														
備考															
リンク															
	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K532E343		地域福祉論 (Community Welfare and Community Social Work)						メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	2,3,4	経済学部	後期	水I	日本語			単独								
担当教員	氏名 三好 禎之 E-mail miyoshi-yoshiyuk@oita-u.ac.jp 内線 7696																	
授業の概要	人口ボーナス期の福祉施策は、問題・課題を抱えた人を福祉施設に入居させるといった福祉サービスが展開されてきた。だが、人口オーナス期を迎えた現代社会においては、専門的な保健・医療・福祉サービスを利用しつつ、家族や地域住民などの支えによって住み慣れた地域でその人らしく暮らしていく「地域包括ケアシステム」と、支え、支えられる関係性を超えた地域共生社会の実現が目指されている。本講義は、「地域包括ケアシステム」を実現するための地域福祉と、人口減少を迎えた社会に対応した地域共生社会の創出を検討する。以上、人口減少を迎えた社会の動向と地域づくりの潮流を学び、あたらしい地域福祉のかたちを考究する。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	現代社会における地域の福祉的課題を列挙できる。また、現代社会における福祉的問題・課題の背景を説明できる。							○										
目標2	「地域包括的ケアシステム」の理念を理解し、地域福祉の主体による実践を列挙できる。									○								
目標3	社会資源の開発を理解し、その方法論を説明できる。										○							
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)								5		3	2							
授業の内容																		
1	オリエンテーション 地域福祉とは―地域福祉の基本的な考え方―																	
2	人口減少社会の地域福祉																	
3	地域福祉の新たな枠組み ―地域福祉の構成要素と構成要件―																	
4	地域福祉の対象と課題 ―福祉問題群の事象と課題―																	
5	地域福祉の思想と理論																	
6	福祉コミュニティの形成―コミュニティ論を超えて―																	
7	地域福祉の政策と計画																	
8	地域福祉計画の戦略																	
9	地域福祉計画の住民参加と組織化																	
10	居住福祉のまちづくり																	
11	地域福祉の実践と運営 ―過疎地域で住み続けるために―																	
12	地域包括ケアシステムとネットワーク																	
13	地域福祉推進組織と多能的サービス供給																	
14	地域福祉の主体形成とコミュニティ・ソーシャルワーク																	
15	まとめ：新時代の地域福祉構想																	
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		○		講義では映像及び資料などを活用する。				エ そ 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換		○															
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造		○															
授業時間外 学修の内容と 想定時間		準備学修		シラバスを参考に各回のテーマについて、教科書や参考書、関連資料などで予習を行い、質問事項や疑問点なども含めてノートに整理しておく。(22.5h)														
		事後学修		事後学習としては、受講後、予習内容と関連づけて、各自ノートを整理するようにする。(22.5h)														
		想定時間合計		45														
教科書		講義内で、レジュメ、資料を配付する。																
参考書		野口定久(2016)『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房 篠谷浩介(2013)『里山資本主義』角川 宇沢弘文(2000)『社会的共通資本』岩波新書																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	レポート課題						100%	○	○	○								
注意事項		講義中の携帯操作や私語は禁じます。																
備考																		
リンク																		
		URL																
教員の実務経験		三重県四日市市地域福祉計画策定委員長 大分市社会福祉審議会委員 地域共生社会の実現に向けた実践																
実務経験をいかした教育内容		地域福祉計画策定に係る方法を説明できる。 地域共生社会の実現に向けた事業を説明できる。 健康寿命の延伸と社会的関係資本の醸成事業に係る方法ならびに効用を説明できる。																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
K343R418		公的扶助論 (Public Assistance)					地域システム学科 地域システム学科		対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択		2	2, 3, 4	経済	前期	木4	日本語		単独									
担当教員	氏名 三好 禎之																	
	E-mail miyoshi-yoshiyuk@oita-u.ac.jp 内線 7696																	
授業の概要	本講義は、現代の貧困問題とそれに対する施策としての公的扶助の原理や、制度について学ぶことを目的とする。また、国民生活の安全網としての生活保護の問題・課題を検討することにある。そのため、まず、2000年代に入って社会的に注目された日本の貧困問題を分析し、その実態を理解する。次いで、救貧対策としての公的扶助の役割や原理を学ぶ。そのうえで、日本の生活保護制度の仕組みを学ぶとともに、運用場面における諸問題について検討を深める。以上、公的扶助の実態を踏まえることから、日本社会が直面する貧困問題を検討する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7			
目標1	「貧困問題」を分析する視点を修得する。						○											
目標2	公的扶助の実態を理解し、説明できる。							○	○									
目標3	生活保護制度の仕組みや実施体制を説明できる。								○									
目標4	貧困問題をふまえて生活保護の改革課題を提示することができる。									○								
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)							3	2	3	2								
授業の内容																		
1	現代日本の貧困問題																	
2	貧困の概念																	
3	貧困の把握と測定																	
4	戦前日本社会における国民生活と貧困問題																	
5	戦後日本社会における国民生活の状況と社会保障の役割																	
6	日本の貧困問題と貧困対策1																	
7	日本の貧困問題と貧困対策2																	
8	生活保護制度の成立と展開																	
9	生活保護の目的と原理																	
10	生活保護制度の仕組みと保護基準																	
11	生活困窮の実態																	
12	生活保護の実施体制と援助の方法																	
13	生活保護の動向と特徴																	
14	生活保護改革と生活困窮者自立支援制度																	
15	まとめ																	
ラー イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		○	講義では映像及び資料などを活用する。			工 そ 夫 の 他 の											
	B:意見の表現・交換		○															
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造		○															
授業時間外学 修の内容と想 定時間	準備学修		参考文献や辞典、配布資料から、用語の理解、法制度、歴史的背景を予習する(22.5h)															
	事後学修		配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学習した内容を深める(22.5h)															
	想定時間合計		45															
教科書		○教科書は指定しない。 ○毎回、講義レジュメ及び資料を配布する。																
参考書		講義内で参考書等を紹介する。																
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	レポート課題						100%	○	○	○	○							
注意事項		講義中の携帯操作や私語は禁じます。																
備考																		
リンク																		
		URL																
教員の実務経験		○名古屋市路上生活者の歩数調査 ○名古屋市路上生活者の歩数ならびに体組成調査 ○地域共生社会の実現に向けた実践の展開																
実務経験をいかした教育内容		○歩数調査及び体組成計に係る調査方法を説明できる。○歩数調査ならびに体組成の分析方法を説明できる。 ○重層的支援体制整備事業を説明できる。																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K53IE323		西洋経済史 (History of Occidental Economy)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	2,3,4	経	後期	金2	日本語			単独							
担当教員	氏名 安永 雅																
	E-mail 内線																
授業の概要	この授業は、19世紀から20世紀にかけてのヨーロッパ経済（北米、日本にも適宜言及）を扱います。世界でいちはやく近代化、工業化を遂げたヨーロッパにおいて、19世紀以降に経済社会がどのように成長・発展してきたのか、また同時に、どのような社会問題や経済危機が発生し克服されてきたのかを学びます。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	近現代の西洋経済史についての基礎的な知識を習得する。									○	○						
目標2	西洋の影響力を、西洋以外の多様な地域との関連で理解する。									○	○			○			
目標3	西洋史における歴史的事象を現代の問題と関連づけて考える。									○	○	○					
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度（計10）										4	3	2		1			
授業の内容																	
1	序：西洋経済史の対象・方法																
2	19世紀以前：産業革命について																
3	19世紀① 帝国主義：列強と経済																
4	19世紀② ヨーロッパの経済発展と恐慌																
5	19世紀③ 社会主義の影響力																
6	19世紀～20世紀：社会保障制度（ビスマルクからロイド＝ジョージまで）																
7	20世紀前半① 戦間期の経済システムと大恐慌																
8	20世紀前半② 統制経済について（戦前ヨーロッパの経験）																
9	20世紀後半① 戦後復興																
10	20世紀後半② ブレトン・ウッズ体制																
11	20世紀後半③ 福祉国家の建設																
12	20世紀後半④ 1960年代：成長の「黄金時代」																
13	20世紀後半⑤ 1970年代：ニクソンショックとオイルショック																
14	20世紀後半⑥ 欧州統合の経済史的意義																
15	総括：欧米経済史と21世紀																
フィードバック	A:知識の定着・確認	○	・講義後に簡単なリアクションペーパーを配布し、それを授業の復習、授業への質問、要望の機会として活用してもらいます。							夫 そ の 他 の 工							
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向	○	・学期中のレポート課題の際、資料や文献の探し方について説明、相談する機会を設けます。														
	D:知識の活用・創造																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	講義スライドの予習を通して、各講義で扱う内容を把握する。（15h）															
	事後学修	講義スライドを復習するとともに、参考書に目を通して内容の理解を深める。（30h）															
	想定時間合計	45															
教科書	授業前に講義スライドを配布します。																
参考書	各回の講義スライドに、テーマごとに関連する参考書を記載します。その他、資料として使えるものに、 大阪市立大学経済研究所（編）『経済学辞典 第3版』岩波書店、1992年 社会経済史学会（編）『社会経済史学事典』丸善出版、2021年 金澤周作（監修）『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年、などがあります。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート課題						30%	○	○	○							
	学期末試験						70%	○	○	○							
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)				授業形式							
K532E324		日本経済史 I (Economic History of Japan I)						メジャー専門科目 経済メジャー科目				対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	2,3,4	経	前期集中	他	日本語				単独								
担当教員	氏名 古波藏 契																		
	E-mail kei.kohagura@gmail.com 内線																		
授業の概要	近現代日本の成り立ちを経済史の視点から理解する。歴史学は、日々の暮らしを送るなかで当たり前のもので受け入れている常識や価値観がどのような経緯でつくり上げられたのかを理解するのに役立つ。とりわけ社会の仕組みが大きく揺らぐ時代には、距離を置いて現状を捉えるための歴史的視座が重要になる。なかでも経済は社会のあり方を根底的に左右する領域であり、その基本的な性質を理解するだけでも歴史の見通しは著しく良くなる。 本授業では、現代資本主義社会の成り立ちを概観した後、戦後日本社会の経験を経済史的観点から概観する。その際、日本本土と沖縄両方に視点を置き、中心と周縁の歴史経験の違いにも注意を促す。また、歴史的視点を現在の問題に応用する方法を学ぶため、冷戦終焉後の近過去・現在の事柄も取り挙げる。 なお、本授業ではコメントシートを通じた双方向型のコミュニケーションを重視する。																		
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7
目標1	前近代社会の経済の歴史は、つねに政治、外交、文化・宗教と密接な関連性をもっていたことを理解できること。									○									
目標2	人びとの経済生活と宗教文化の関係を基軸にした前近代の日本の歴史の展開を、自分自身の言葉で説明できるようになること。												○						
目標3	留学など、海外の人との国際交流の場において、文化の相互理解をめぐり円滑なコミュニケーションができるようになること。									○									
目標4	歴史を学んで単に知識を増やすだけでなく、つねに現在社会のあり方を見つめ直す能力を得られるようになること。											○							
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度 (計10)										5		3	2						
授業の内容																			
1	オリエンテーション (授業の到達目標、進め方、評価方法等について)																		
2	近代資本主義社会のしくみ																		
3	ファシズムと福祉国家																		
4	冷戦とは何か																		
5	日本の復興と沖縄の占領																		
6	中央-地方関係の政治経済史																		
7	高度成長とAmerican Way of Life																		
8	ミドルクラスとマイホーム主義																		
9	戦争と経済																		
10	ポスト冷戦の時代																		
11	市場と共同体																		
12	感情の労働経済学																		
13	協同組合の現代性																		
14	地域経済再考																		
15	まとめ																		
ラーニングエングープ	A:知識の定着・確認	○	コメントシートは抜粋・匿名化の上、次回授業冒頭に読み上げる。						エ そ 夫 の 他 の	可能な限り動画を多用して学ぶ。									
	B:意見の表現・交換	○	感想・疑問点を受講生間で共有するとともに、教員の応答を重ねることで議論を深める。																
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	次回授業のスライド資料を一読し、関連しそうな身の回りの事柄を挙げられるようにしておく (10h)																	
	事後学修	授業内容に関するコメントシートを記入し、授業で学んだ内容を具体的な事例に応用して考えられるようにしておく (35)																	
	想定時間合計	45																	
教科書	教科書は指定しない。事前にスライド資料を配布する。																		
参考書	・丸山真人『人間の経済と資本の論理』東京大学出版会、2022年、ISBN978-4-13-040308-5 ・古波藏契『ポスト島ぐるみの沖縄戦後史』有志舎、2023年、ISBN 978-4-908672-66-8 ・武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019年、ISBN 978-4-641-16528-1																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法																		
	コメントシート (内容を評価する)		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	小テスト		40%				○												
	最終課題		30%	○															
			30%	○	○	○	○												
注意事項																			
備考																			
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)				授業形式						
K532E325		日本経済史Ⅱ (EconomicHistoryofJapanII)						メジャー専門科目 経済メジャー科目				オンライン (同時双方、オンデマンド)						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語				担当形態					
選択		2	2, 3, 4	経	後期集中	他	日本語						単独					
担当教員	氏名 堀川祐里																	
	E-mail内線																	
授業の概要	日本の産業革命期から現代に至る経済の歴史を、特に労働に焦点を当て、ジェンダーの視点から考察する。 本授業の目的は、受講生の歴史を学ぶことについての意義の理解を、年号や重要語句を覚えるといった受験勉強のようなものから、現代社会の問題を解決する方法であるという理解へと発展させることである。高校生までに得た日本史の知識をジェンダーの視点から相対化出来ることを目指してほしい。 本授業の履修にあたっては、高校生までの日本史の知識があることが望ましいと言える。																	
具体的な到達目標DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7			
目標1	日本経済史の基礎的知識を身につける。								○					○				
目標2	講義で取り扱うそれぞれの時期における労働環境の特徴について説明できるようになる。								○		○	○						
目標3	日本経済についてジェンダー視点から自分の考えを述べることができるようになる。									○	○		○					
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)									3	1	3	1	1	1				
授業の内容																		
1	オリエンテーション：授業計画、成績評価、注意事項等に関する説明。																	
2	ジェンダーの視点から見た経済史																	
3	官営富岡製糸場と工女																	
4	産業革命と労働運動の高揚																	
5	工場法の成立と繊維産業の変遷																	
6	女性の高学歴化と「職業婦人」																	
7	戦時中の日本経済と社会政策の在り方①																	
8	戦時中の日本経済と社会政策の在り方②																	
9	戦前期の日本経済のまとめ																	
10	労働組合の歴史																	
11	戦後の労働状況と労働運動																	
12	高度経済成長期と「専業主婦」①																	
13	高度経済成長期と「専業主婦」②																	
14	国連女子差別撤廃条約の批准と男女雇用機会均等法の制定																	
15	まとめ：現代の労働環境を歴史的視点から考える																	
ラーニング エッセンス グラフ	A:知識の定着・確認	○		本授業は対面授業であるが、双方向性を保つよう、受講生にはMoodle等を用いた課題や質問に回答してもらう。				エ そ 夫 の 他 の	授業の一部に、オンデマンド型授業やリアルタイム受講のオンライン授業を実施する可能性がある。									
	B:意見の表現・交換	○																
	C:応用志向	○																
	D:知識の活用・創造	○																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	本授業は、受講生が将来社会人として自立する力を身につけるために、自己学習の習慣をつけることを推奨する。新聞やニュース等で報道される労働やジェンダーに関する話題にアンテナを張り、情報収集を心がけること。各授業につき2時間程度。(2時間815回＝30時間)																
	事後学修	本授業を履修するにあたっては、授業後の復習を重要視する。授業内に行う小テストや課題をクリアできるよう、毎回の授業で扱った範囲についてはその都度復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しておくこと。各授業につき2時間程度。(2時間815回＝30時間)																
	想定時間合計	60																
教科書	教科書は用いず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進める。受講生には「メモ」をとることを習慣づけ、自分だけのノートを作成していくことを心がけてほしい。資料は大学のMoodleから配布するため、授業の前にはシステムを確認し、適宜資料の印刷等をおこなっておくこと。																	
参考書	自己学習のための参考書としては、以下の文献を挙げる。ここに挙げた文献のほか、参考書は授業内に適宜紹介する。久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編(2015)『ジェンダーから見た日本史』大月書店。 堀川祐里(2022)『戦時期日本の働く女たちジェンダー平等な労働環境を目指して』晃洋書房。 堀川祐里編著(2024)『労働環境の不協和音を生きる労働と生活のジェンダー分析』晃洋書房。																	
成績評価の方法 及び 評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業内におこなう小テスト							45%	○	○	○							
	オンラインツールを用いた課題や質問への回答							55%	○	○	○							
注意事項	授業に関する詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、必ず第1回目の授業に出席すること。なお、授業中、私語など授業妨害となる行為は厳禁とし、そのような迷惑行為をおこなった受講生には教員が退室を促すことがある。																	
備考	通信状況のエラー等で小テストや授業内課題に答えられない、というトラブルについては対応しない(救済措置はない)ため、毎回スマホ、タブレット、パソコン等の端末は電池が切れないように充電し、オンライン環境を整えて受講すること。同様に、欠席に対する救済措置もない。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)			授業形式									
K143E410		環境の経済学 (Environmental Economics)						経済学科 経済学科			対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態									
選択		2	2, 3, 4	経	前期集中	他	日本語				単独									
担当教員	氏名 外川 健一（非常勤講師）																			
	E-mail togaw@kumamogto-u.ac.jp 内線																			
授業の概要	四大公害病から、近年の地球環境問題、さらには古代や中世・近代の環境問題を概観して、何が問題で、どのようなメカニズムで発生したのかを、自らが学ぶ態度を養うことを目的としたい。なお、視聴覚教材や映画を数本鑑賞するので、その時間帯はあまり音の出ないお菓子や軽食、飲料の持参をしてもかまわない。																			
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7			
目標1	四大公害病の要因と課題について理解する。										○	○	○							
目標2	産業廃棄物問題の原因と対策について理解する。										○	○	○							
目標3	新しいＩＯＴ等のテクノロジーと環境問題も関係について理解する。										○	○	○							
目標4	SDGsについて理解し、EV化などの問題や課題を意識しながら行動できるようになる。										○	○	○							
目標5	グローバルな環境問題にはどのような課題があるか理解する。										○	○	○							
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
									各DPへの関連度(計10)		7	2	1							
授業の内容																				
1	ガイダンス、SDGsへの経緯																			
2	SDGsの現状と課題																			
3	四大公害病、とくに水俣病問題																			
4	同上																			
5	同上																			
6	同上																			
7	4大公害病 とくに新潟水俣病																			
8	4大公害病 とくにイタイイタイ病																			
9	脱炭素社会とEVシフト																			
10	世界のエネルギー事情																			
11	日本の廃棄物問題 概要																			
12	豊島事件 その1																			
13	豊島事件 その2																			
14	自動車リサイクル法とその問題点																			
15	まとめと展望																			
ニ ー ク テ ィ ー プ ラ ー	A:知識の定着・確認		集中講義ですので、講義期間中は毎日、担当講師のアドバイスの下、自分の頭で指定テキスト等を読み、講義を聴いて考えて書くトレーニングを行います。講義では視聴覚教材も積極的に取り入れて、わかりやすい説明を心がけます。						エ ス オ フ の 他 の											
	B:意見の表現・交換																			
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		準備学修は指定した個所をお願いします。(1.5h×15回)																	
	事後学修		事後学修に時間をかけてください。(1.5h×15回)																	
	想定時間合計		45																	
教科書	蟹江憲史(2020)『SDGs 持続可能な開発目標』中公新書 原一男・疾走プロダクション(2021)『水俣曼荼羅 制作ノート』皓星社																			
参考書	外川健一(2017)『資源政策と環境政策』原書房。																			
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法								割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	試験								100%											
定期試験100%、ただし毎回の講義後行う宿題の点やアクティブラーニングへの参加貢献を加味することもあります。																				
注意事項	注意事項 しっかりと睡眠をとって、グループワークや担当講師が発言を求めた際にはしっかりと答えられる学生でないとキツイ授業だと思います。																			
備考	シラバスの講義順番は、一例で、受講生の関心を見ながら随時変更します。																			
リンク																				
	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
K532E327		経済政策論Ⅰ (Theory of Economic PolicyⅠ)					メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	2,3,4	経	前期	月2	日本語		単独							
担当教員	氏名 高見 博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674														
授業の概要	現実の様々な経済問題を評価するためには、個々の事例について何らかの理論的枠組みを基礎として考察することがより有効です。その枠組みとしての、経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系の修得がこの講義の目的です。ミクロ経済学の考え方をを用いて、市場経済の限界と政府の果たすべき役割について理解し、経済政策の基本的な考え方を展開します。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	市場が成功する状況を説明できる。						○								
目標2	市場が失敗する事例を説明できる。						○								
目標3	外部性が存在する場合の問題点を説明できる。						○								
目標4	公共財が存在する場合の問題点を説明できる。						○								
目標5	不完全競争の場合の問題点を説明できる。						○								
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							10								
授業の内容															
1	政府の役割とは														
2	経済政策の課題														
3	市場均衡(1):消費者行動														
4	市場均衡(2):企業行動														
5	市場均衡(3):市場均衡														
6	市場均衡と厚生経済学の基本定理														
7	政府の市場介入のコスト(余剰分析)														
8	市場の失敗														
9	外部性(1):私的解決策														
10	外部性(2):公的解決策														
11	公共財(1):公共財の最適供給														
12	公共財(2):リンダール・メカニズム														
13	独占と市場の失敗														
14	自然独占と価格設定														
15	まとめ														
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と、随時、小レポートを作成してもらい、講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。				エ	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。							
	B:意見の表現・交換						そ								
	C:応用志向						夫								
	D:知識の活用・創造						他								
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと(15h)。													
	事後学修	講義時の小レポートと講義内容の振り返り(30h)													
	想定時間合計	45													
教科書	教科書は設定しません。プリントを配布します。														
参考書	講義中に適宜提示しますが、以下の2冊を挙げておきます。 スティグリッツ(2022)『スティグリッツ 公共経済学(第3版) 上』東洋経済新報社, ISBN 9784492315446。 八田達夫(2013)『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社, ISBN 9784492813027。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	期末試験		70%	○	○	○	○	○							
	講義時等の小レポート		30%	○	○	○	○	○							
注意事項	板書により講義を進めます。														
備考	本講義の分析手法は、専門基礎科目のミクロ経済学(初級ミクロ経済学)程度の水準です。														
リンク															
	URL														

ナンバリング			授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)				授業形式							
K532E328			経済政策論Ⅱ (Theory of Economic Policy II)					メジャー専門科目 経済メジャー科目				対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語			担当形態							
選択		2	2, 3, 4	経	後期	月2	日本語					単独							
担当教員	氏名 高見 博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674																		
	授業の概要 現実の様々な経済問題を評価するためには、個々の事例について何らかの理論的枠組みを基礎として考察することがより有効です。その枠組みとしての、経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系の修得がこの講義の目的です。主としてマクロ経済学の考え方をを用いて、経済政策の基本的な考え方を展開します。																		
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	マクロ経済学の基本的な概念を説明できる。								○										
目標2	閉鎖経済の下でのマクロ経済政策の効果を説明できる。								○										
目標3	開放経済の下でのマクロ経済政策の効果を説明できる。								○										
目標4	短期・長期の視点で財政政策の効果を説明できる。								○										
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度 (計10)									10										
授業の内容																			
1	ガイダンス：政府の役割																		
2	マクロ経済政策の課題																		
3	経済の安定(1)：45度線モデル																		
4	経済の安定(2)：乗数																		
5	経済の安定(3)：IS曲線																		
6	経済の安定(4)：LM曲線																		
7	経済の安定(5)：IS-LM分析																		
8	公債(1)：政府の予算制約																		
9	公債(2)：公債発行とIS-LMモデル																		
10	公債(3)：公債の中立命題																		
11	公債(4)：財政赤字の問題点																		
12	開放経済と財政金融政策																		
13	経済成長(1)：新古典派成長モデル																		
14	経済成長(2)：財政政策の効果																		
15	まとめ																		
ラーニングエッセンスマップ	A:知識の定着・確認		○	毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と、随時、小レポートを作成してもらい、講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。					エ ス オ フ の 他 の	各種外部試験（経済学検定試験や公務員試験など）を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。									
	B:意見の表現・交換																		
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと（15h）。																
	事後学修		講義時の小レポートと講義内容の振り返り（30h）																
	想定時間合計		45																
教科書		教科書は設定しません。																	
参考書		講義中に適宜提示しますが、以下の2点を挙げておきます。 N.G. マンキュー(2024)『マンキューマクロ経済学I 第5版』東洋経済新報社, ISBN 9784641222243. 福田 慎一・照山 博司(2023)『マクロ経済学・入門 第6版』有斐閣アルマ, ISBN 9784492315583.																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	講義時等の小レポート						30%	○	○	○	○								
	期末試験						70%	○	○	○	○								
注意事項		板書により講義を進めます。必要に応じプリントを配付します。																	
備考		本講義の難易度は、専門基礎科目のマクロ経済学（初級マクロ経済学）の分析道具を用いた程度の水準です。																	
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)				授業形式										
KI43E411		産業組織論 (Industrial Organization)						経済学科 経済学科				対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語				担当形態									
選択		2	3, 4	経	前期集中	他3	日本語						単独									
担当教員	氏名 柳川 隆																					
	E-mail takashi.yanagawa@setsunan.ac.jp 内線																					
授業の概要	産業組織論とはミクロ経済学の応用分野であり、主に市場構造と企業の市場行動および市場成果の関係と、それらへの政策を分析する。本講義ではミクロ経済学、特に不完全競争市場の分析について学んだ後に、競争政策の4つの柱であるカルテル、企業結合、私的独占、不公正な取引方法に関する経済分析と政策の内容について、具体的な事例を用いながら、理論的かつ直感的に理解することを目指す。また近年急速に発展したプラットフォームビジネスの特徴と現状、および課題と競争政策のあり方について学ぶ。さらに公益事業サービスの規制や規制緩和の原理と電力市場の自由化や水道事業の広域化・民営化といった具体的な公益事業サービスの変容について理解することを目指す。4日間の1～4限の集中講義となり、1～3日目の各日に小レポートの課題を出し、翌朝提出してもらう。4日目の最後の16回目の授業では筆記試験を行う。																					
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7
目標1	ミクロ経済学を基礎にして、市場の構造・行動・成果の枠組みを説明できる															○						
目標2	競争政策の理論と実際の基本について説明できる															○			○			
目標3	産業組織の理論を事例に基づいて理解し、現実に応用できる															○						
目標4	急速に発展するプラットフォームビジネスの現状や課題および対策を説明できる															○			○			
目標5	公益事業サービスの規制と規制緩和の理由や現状について説明できる															○		○		○		
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
各DPへの関連度(計10)																6		1	2	1		
授業の内容																						
1	産業組織論の課題と歴史：産業組織論とは、古典的産業組織論、ハーバード・シカゴ論争、新産業組織論(教科書第1章)																					
2	産業組織分析の基礎：消費者行動、生産者行動、市場均衡、ゲーム理論の基礎(教科書第2章、第6章)																					
3	独占企業の価格設定：独占企業の価格設定と非効率性、価格差別の手段と効果(教科書第3章)																					
4	寡占市場の理論：寡占市場での競争と価格および生産量、寡占の市場構造(教科書第7章)																					
5	カルテル：競争政策とは、カルテルとは、カルテルの実現、カルテルが実現しやすい市場環境、カルテルに対する規制(教科書第8章)																					
6	市場画定と企業結合：市場支配力、集中度、市場範囲の画定方法、合併とは、水平的合併の厚生効果、企業結合規制(教科書第9章、第10章)																					
7	戦略的行動と市場の独占化：戦略的行動とは、略奪価格と評判形成、略奪価格に対する競争政策(教科書第11章)																					
8	垂直的な統合：垂直的な取引と企業間関係、垂直的統合による効率性と排除(教科書第12章)																					
9	垂直的な制限：ブランド内競争の制限、ブランド間競争の制限(教科書第12章)																					
10	プラットフォームビジネスの発展と特徴：プラットフォームビジネスの現状、プラットフォームビジネスの特徴																					
11	プラットフォームビジネスの課題と政策：プラットフォームビジネスのもたらす諸課題、プラットフォームビジネスに対する競争政策																					
12	自然独占と公益事業規制：費用逓減産業、公正報酬率規制、規制緩和・民営化、インセンティブ規制(教科書第4章)																					
13	電力市場改革：電力市場の概要、電力システム改革、電力市場の現状と課題																					
14	水道事業の現状と課題：水道事業の現状と課題、広域化・共同化、官民連携																					
15	全体の振り返り																					
ラーニング	A:知識の定着・確認		○		小レポートを課し、授業中に指名して解答してもらう。小レポートでは知識の確認とともにインターネット等での調査を要する。予習、復習、および筆記試験に向けての時間外学修を必要とする。										その他の							
	B:意見の表現・交換		○																			
	C:応用志向																					
	D:知識の活用・創造																					
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		授業が始まるまでに教科書を読んで予習する(27h)事前学修としての小レポートを作成する(2h)																			
	事後学修		講義レジュメと教科書をもとに復習する(6h)事後学修としての小レポートを作成する(4h)筆記試験のための学修をする(6h)																			
	想定時間合計		45																			
教科書	泉田 成美・柳川 隆『プラクティカル産業組織論』有斐閣、ISBN 978-4-641-12372-4																					
参考書	参考文献は配布資料で指摘します。																					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法										割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	筆記試験(70点)										70%	○	○	○	○	○						
	小レポート第1回										10%	○	○	○								
	小レポート第2回										10%	○	○	○								
	小レポート第3回										10%				○	○						
注意事項																						
備考																						
リンク																						
	URL																					

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K532E33I		社会保障論 (Social Security)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択		2	2,3,4	経	前期集中	他	日本語				単独						
担当教員	氏名 三好 禎之																
	E-mail miyoshi-yoshiyuk@oita-u.ac.jp 内線																
授業の概要	本講義は、資本制社会において全ての人に必要となる社会保障制度について、基本的な考え方と仕組みを理解することを目的する。本講義では第一に、現代社会の現状を理解しつつ、社会保障という政策の理論を学ぶ。第二に、諸外国と日本との社会保障制度の成立過程を歴史的に検討する。第三に、社会保障の体系や機能について学び、社会保障制度について総合的な理解を深める。以上、現代社会における社会保障をめぐる課題について理解するとともに、福祉社会のあり方について検討する。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7	
目標1	社会保障政策の理論を理解する。							○									
目標2	社会保障政策が成立に至るまでの歴史を理解する。								○								
目標3	社会保障制度の課題と役割について理解する。								○								
目標4	社会保障制度あり方を検討する。								○	○							
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)							3	5	2								
授業の内容																	
1	オリエンテーション 少子・高齢化の現状																
2	経済環境と労働環境の変化																
3	社会保障の理念と機能																
4	社会保障の歴史的展開																
5	社会保障の体系と構造																
6	社会保障の費用と財源																
7	経済動向と社会保障																
8	公的年金制度1 公的年金制度の歴史																
9	公的年金制度2 国民年金の概要																
10	公的年金制度3 厚生年金の概要																
11	医療保険制度1 医療保険制度歴史																
12	医療保険制度2 健康保険制度と国民健康保険制度																
13	医療保険制度3 後期高齢者医療制度																
14	介護保険制度																
15	まとめ																
ラーニング シグ ナ グ プ	A:知識の定着・確認		○	講義では映像及び資料などを活用する。					エ ス ク ラ フ の 他 の								
	B:意見の表現・交換		○														
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造		○														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		講義内容に関連する情報を文献、論文、新聞等より収集する。(22.5h)														
	事後学修		配布レジュメを活用した講義内容について復習を行う。(22.5h)														
	想定時間合計		45														
教科書		指定なし															
参考書		講義前にレジュメを配布する。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート課題						100%	○	○	○	○						
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式								
K532E332		財政学Ⅰ (Public FinanceⅠ)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態								
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	水2	日本語				単独								
担当教員	氏名 小野 宏 E-mail onohiro@oita-u.ac.jp 内線 7710																	
授業の概要	公園などの公共財の供給、社会保障、景気対策など、政府や自治体は多くの活動を通して、私たちの生活を支え、望ましい社会を実現しています。しかし、近年、財政状況は厳しくなるとともに、高齢化社会にともなう年金問題や地域間格差など解決すべき問題は増え続け、財政運営はますます困難の度を強めています。本講義では、様々な財政問題の①現状を把握し、②問題発生の原因を探り、③問題解決の糸口を考えていきます。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7			
目標1	政府の役割を理解する。							○										
目標2	財政問題の現状や発生のメカニズムを理解する。							○										
目標3	関連した新聞記事などの理解力を強化する。							○										
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)							10											
授業の内容																		
1	イントロダクション－財政学とは－																	
2	日本の財政状況を考える																	
3	経済活動と政府																	
4	財政の役割																	
5	財政の役割－国と地方の機能分担－																	
6	財政制度－予算制度－																	
7	財政制度－財政投融资制度－																	
8	まとめ(1)																	
9	日本の財政問題－財政赤字の問題点1																	
10	日本の財政問題－財政赤字の問題点2																	
11	政府支出の理論－効率性－																	
12	政府支出の理論－公共財の最適供給－(1)																	
13	政府支出の理論－公共財の最適供給－(2)																	
14	政府支出の理論－公共財の最適供給－(3)																	
15	まとめ(2)																	
ラ テ ィ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	○					・レポート課題によって授業内容を確認し、自らの考えをまとめる。			エ そ 夫 の 他 の								
	B:意見の表現・交換	○																
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	・現在発生している財政の諸問題に対して関心を持ってもらいたい。そのためにも、財政関連の新聞記事に目を通す(15h)。 ・配付資料や参考書等を用いて予習する(5h)。																
	事後学修	・理解できなかった点を明確にするため、復習する(25h)。																
	想定時間合計	45																
教科書	林宜嗣・林亮輔・林勇貴(2019)『基礎コース財政学 第4版』、新世社、ISBN978-4883843046																	
参考書	参考書を指定しない																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	学期末試験						70%	○	○	○								
	小テスト及びレポート課題						30%	○	○	○								
注意事項	連絡等にMoodleを活用します。定期的に確認してください。																	
備考	特になし																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式									
K532E333		財政学Ⅱ (Public Finance II)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	2,3,4	経済学部	後期	水2	日本語				単独								
担当教員	氏名 小野 宏																		
	E-mail onohiro@oita-u.ac.jp 内線 7710																		
授業の概要	財政学Ⅰでは、望ましい社会を実現するために必要な「財政の役割」について主に解説しました。財政学Ⅱの前半では「財政の役割」として、社会保障の目的と課題及び経済安定化機能について考えます。「財政の役割」を国や自治体が果たすには、財源が必要ですが、近年、少子高齢化によって財源調達が困難になっています。財政学Ⅱの後半は財源調達方法としての税の役割について考えます。																		
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	政府の役割を理解する。								○										
目標2	財政問題の現状や発生のメカニズムを理解する。								○										
目標3	関連した新聞記事などの理解力を強化する。								○										
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度(計10)									10										
授業の内容																			
1	イントロダクションー財政学とはー																		
2	所得分配の実態と財政による再配分																		
3	社会保障の目的																		
4	社会保障の課題ー年金ー																		
5	社会保障の課題ー医療等ー																		
6	財政と経済安定																		
7	経済安定化のメカニズム(1)																		
8	経済安定化のメカニズム(2)																		
9	税の役割と租税原則(1)																		
10	税の役割と租税原則(2)																		
11	課税と経済効率																		
12	日本の主要な税ー所得税ー																		
13	日本の主要な税ー消費税ー																		
14	日本の主要な税ー法人税ー																		
15	まとめ																		
ラーニング エッセンス グループ	A:知識の定着・確認	○	・レポート課題によって授業内容を確認し、自らの考えをまとめる。						エ そ 夫 の 他 の										
	B:意見の表現・交換	○																	
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	・現在発生している財政の諸問題に対して関心を持ってもらいたい。そのためにも、財政関連の新聞記事に目を通す(15h)。 ・配付資料や教科書等を用いて予習する(5h)。																	
	事後学修	・理解できなかった点を明確にするため、教科書や配布資料を用いて復習する(25h)。																	
	想定時間合計	45																	
教科書	林宣嗣・林亮輔・林勇貴(2019)『基礎コース財政学 第4版』、新世社、ISBN978-4883843046																		
参考書	参考書を指定しない。																		
成績評価の方法 及び 評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	学期末試験		70%	○	○	○													
	小テスト及びレポート課題		30%	○	○	○													
注意事項	連絡等にMoodleを活用します。定期的に確認してください。																		
備考	特になし																		
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K532E334		金融論Ⅰ (FinanceⅠ)					メジャー専門科目 経済メジャー科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択		2	2,3,4	経	前期	火2	日本語				単独						
担当教員	氏名 小笠原 悟																
	E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713																
授業の概要	お金ってなんだろう。コンビニでモノを買ったりするときに使うもの、将来のために貯めておくもの、同じようなモノでもどちらを買えばいいか比較する時に尺度として使うもの、などなど。お金はみなさんが経済活動をする上で必ずといっていいほど一緒に付いてきます。こうした身近な「お金」について、その流れに関わる経済現象を取り扱うのが金融論です。本講義では、金融の基礎を学ぶとともに、それが私たちの生活の中でどのような役割を果たしているか理解できるようにします。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7	
目標1	お金の基本的な概念、金融機関の役割、金融システムなど基礎的な金融知識を身につける						○								○		
目標2	マクロ経済政策としての金融政策を理解する						○										
目標3	様々な金融商品の特徴とリスクを理解する						○				○				○		
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)							5				2			5			
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	貨幣(テキスト第2章)																
3	金利(第3章)																
4	金融政策のためのマクロ経済学(第4章)																
5	金融政策の課題と日本銀行(第5章)																
6	金融政策の基本手段と新しい展開(第6章)																
7	金融システムと金融仲介機関の役割(第7章)																
8	銀行以外の金融機関(第8章)																
9	金融システム安定化のための政策(第9章)																
10	金融機関の経営破たんへの対応策(第10章)																
11	金融市場に関する規制(第11章)																
12	間接金融型の金融商品(第12章)																
13	直接金融型の金融商品(第13章)																
14	ファイナンスの基礎理論																
15	まとめ																
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	○	知識の確認と定着のため振り返りノートの提出があります。					エ そ 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造	○															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書で次回の授業に該当する箇所や参考資料を読む(15h) 日頃から金融に関する報道や情報に触れ、自らの考えをまとめられるようにする。															
	事後学修	授業終了後、振り返りノートを作成し、提出する(30h)。															
	想定時間合計	45															
教科書	家森信義(2025)『金融論(第4版)ベーシック+』,中央経済社,2,300円+税																
参考書	小林照義(2020)『金融政策(第2版)ベーシック+』中央経済社,2,530円講義中にも適宜指示します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	振り返りノート+小テスト						50%	○	○	○							
	期末テスト						50%	○	○	○							
注意事項	振り返りノートの提出を出欠確認の代替としますので、3分の2以上の提出がない場合、期末テストの受験資格を失うことになります。また、授業では教科書以外の資料を用いる場合があります。																
備考	この授業では実体経済と金融の関係を学びます。マクロ経済学やミクロ経済学の基礎知識を身につけていることが重要です。また、新型コロナ感染拡大の状況によっては期末テストはレポートに変更する場合があります。																
リンク																	
	URL																
担当教員の 実務経験の有無	○																
教員の実務経験	エコノミスト、為替ストラテジスト																
実務経験を いかした教育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
K532E336		国際金融論Ⅰ (International FinanceⅠ)					メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択		2	2,3,4	経済学部	前期	金2	日本語		単独									
担当教員	氏名 小笠原 悟																	
	E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713																	
授業の概要	経済のグローバル化が進むにすると、国家間の資金の流れは巨額なものになっています。また、国境を越えた財・サービスや金融取引ではそれぞれの国が使用する通貨が異なるため、為替レート（相場）という交換比率が必要になります。この講義では、国際金融の基本である「国際収支」「為替レートの変動要因」「為替レートの決定理論」について学ぶと共に、為替レートと実体経済の関係について考えます。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	国際金融の基礎理論を理解し、為替レートの変動要因を理論に基づいて説明できるような能力を獲得することを目指します。							○	○					○				
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)								5	2					3				
授業の内容																		
1	国際金融論とはーガイダンス																	
2	国際化とグローバル化																	
3	国際収支の見方・使い方																	
4	国際資本移動の基礎																	
5	外国為替の基本①(外国為替のしくみ)																	
6	外国為替の基本②(為替レートの見方)																	
7	外国為替の基本③(為替レートと貿易収支)																	
8	外国為替の基本④(通貨制度)																	
9	為替レートの変動要因①(購買力平価)																	
10	為替レートの変動要因②(購買力平価パズル)																	
11	為替レートの変動要因③(金利平価)																	
12	為替レートの決定理論(マネタリー・アプローチからアセット・アプローチへ)																	
13	為替レートの決定理論(ポートフォリオ・バランス・モデル)																	
14	為替レートの決定理論(期待と予想)																	
15	まとめ																	
ラーニング チェック シート グループ	A:知識の定着・確認	○	授業の理解度を高めてもらうため、振り返りノートの提出と数回小テストを実施します。							エ そ 夫 の 他 の								
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	事前にテキストをよく読んでおくこと(15h)。																
	事後学修	知識の定着としての振り返りノート(30h)																
	想定時間合計	45																
教科書	橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ』2022年 有斐閣																	
参考書	清水順子・大野早苗・松原聖『徹底解説 国際金融 理論から実践まで』2016年 日本評論社その他適宜Moodleに資料を掲載したり、講義時に紹介します																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	振り返りノート&小テスト							50%	○									
	期末試験							50%	○									
注意事項	国際金融の基礎を網羅的に学ぶため、ⅠとⅡをセットで受講することが望ましいです。																	
備考	遅刻や授業中の私語に対しては、厳しく対応します。 学んだことを思い出してもらうために、小テストは抜き打ちで実施します。 普段から新聞、ニュース等でできるだけ金融・経済関連のトピックに触れるようにしましょう。授業の進行状況によって、内容を変更する場合があります。																	
リンク																		
	URL																	
担当教員の 実務経験の有無	○																	
教員の 実務経験	エコノミスト、為替ストラテジスト																	
実務経験を いかした教育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K532E338		証券論 (An Introduction to Securities Market)						メジャー専門科目 経済メジャー科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	2, 3	経	前期	金I	日本語			単独								
担当教員	氏名 金 珍奎																	
	E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690																	
授業の概要	本講義の目的は、証券そのものや証券市場に関する基礎知識を身につけることにある。証券とは何か、株式や債券とは何か、またこれらの証券が発行・流通される証券市場とは何かについて学習する。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	証券と投資の基礎を身につける。								○	○								
目標2	株式投資ゲームをつうじて証券投資の現状を把握する。								○	○								
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度(計10)									5	5								
授業の内容																		
1	ガイダンス(証券とは何かや講義の進め方について)																	
2	株式の基礎																	
3	債券の基礎と株式投資ゲームについて																	
4	理論株価と株価の決定要因																	
5	株式市場の様々な指標																	
6	株式の投資尺度																	
7	上場株式の比較分析																	
8	中間まとめ(株式投資ゲームについて確認を含む)																	
9	ベンチャー企業と上場制度																	
10	株式市場の実際その1																	
11	株式市場の実際その2																	
12	債券投資と利回り																	
13	投資信託の仕組み																	
14	投資信託と証券市場																	
15	総まとめ																	
ラーニングエッセンスグループ	A:知識の定着・確認	○	株式投資ゲームの報告書の作成、レポートの提出					エ ス の 夫 の 他 の	報告書を作成するためには、日々の経済情報の把握をはじめ、様々な資料による調査・分析が必要になります。									
	B:意見の表現・交換	○																
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	日々の経済指標を確認しておく(25h)																
	事後学修	配布資料を用いて復習する(20h)																
	想定時間合計	45																
教科書	教科書は指定しない。 毎回プリントを配付する。																	
参考書	川北英隆『個別株の教科書』DISCOVER、2024年。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	株式投資ゲームの報告書						10%	○	○									
	レポート						10%	○	○									
	テスト						80%	○	○									
注意事項	証券関連記事を読み、授業に参加すること。																	
備考	毎回、授業内容に関する質問アンケートと出席をとる。小テストを行うことがある。																	
リンク																		
	URL																	